生態調和農学機構
年　報

2017

東 京 大 学 大 学 院 農 学 生 命 科 学 研 究 科
附 属 生 態 調 和 農 学 機 構

http://www.isas.a.u-tokyo.ac.jp/

1. 本号の対象とする時期は 2017（平成 28）年度である。
2. 肩書等は、2018 年 3 月末現在のものである。

Ⅰ　はじめに 1
1　西東京キャンパスの整備 1
2　教育・研究へのフィールドの活用の推進 1
3　社会連携 2
Ⅱ　組織と運営 3
1　組織・人員構成 3
2　庶務事項 4
(1)　人事事項 4
(2)　その他の庶務事項 4
3　会計事項 7
(1)　H29 年度決算報告 7
4　運営委員会 8
5　運営諮問会議 8
6　スタッフ会議・全体会議 9
(1)　スタッフ会議 9
(2)　全体会議 9
7　キャンパス整備関係 9
8　圃場・施設委員会 10
9　環境安全委員会 11
(1)　リスクアセスメント等実施した内容 11
(2)　環境安全に関するデータ 12
(3)　その効果 13
(4)　問題点 13
(5)　来期展開方針 13
Ⅲ　社会連携活動 15
1　社会連携協議会 15
2　社会連携委員会 15
3　社会連携活動 15
(1)　農場博物館 15
(2)　ひまわり畑プロジェクト 16
(3)　ハス見本園 17
(4)　観桜会 17
(5)　農と食の体験塾　大豆編 18
(6)　東大農場・演習林子どもサマースクール 2017 19

(1)　機構公開セミナー 19
(2)　秋の収穫体験会 19
(3)　職場体験 20
4　一般利用 20
(1)　旧農場 20
(2)　田無演習林 20
IV　技術部 21
1　業務実績 21
(1)　教育支援（学生実習技術指導） 21
(2)　研究支援 21
2　社会貢献（詳細は III 社会連携活動に記載） 22
(1)　「ひまわりプロジェクト」 22
(2)　中学生職場体験の指導 22
(3)　収穫体験会とホームカミングデイ 22
(4)　実習生産物の販売 22
3　安全衛生 22
(1)　災害・ヒヤリハット 22
(2)　機械作業 22
(3)　安全ガイダンス 22
(4)　整理、整頓、清掃、清潔 22
4　研修 23
(1)　国内研修 23
5　グループ別活動概要 26
(1)　作物チーム１　(市川・曽我・和泉・手島) 26
(2)　作物チーム２　（白井・久保田・矢津田・神川・臼井～H29.10.31） 27
(3)　園芸・緑地チーム　（石川・工藤・秦野） 28
(4)　森林チーム　(栗田・相川) 29
(5)　機械管理グループ　（工藤・曽我・和泉・神川・栗田） 31
(6)　安全衛生作業グループ　（白井・和泉・矢津田・臼井・相川） 32
(7)　技能向上グループ　（手島・市川・神川・臼井・石川・相川） 33
V　圃場・施設利用 34
1　農場・緑地 34
(1)　圃場利用 34
(2)　圃場施設利用実績一覧 42

２　田無演習林……49
(1)　圃場施設利用実績一覧（田無演習林）……50
VI　教育活動……53
１　農場・緑地……53
(1)　実習……53
(2)　大学院講義……55
(3)　学部（農学部、教養学部）……56
(4)　他大学講義……57
(5)　学位論文……57
２　田無演習林……58
(1)　実習……58
(2)　講義……59
VII　研究活動……61
１　研究の概要……61
２　主要研究課題……61
(1)　生産環境農学……61
(2)　森林圏科学……61
(3)　社会経済農学……61
(4)　農業工学……61
(5)　境界農学……62
３　生態調和農学機構教員の研究業績……62
(1)　原著論文……62
(2)　総説……65
(3)　著書・訳書……65
(4)　解説記事等……65
(5)　学会発表……65
(6)　招待講演……69
(7)　受賞……69
(8)　研究助成……70
(9)　セミナー･シンポジウムなどの企画･開催……72
(10)　ウェブサイト……73
４　技術職員による研究業績・講演等……73
(1)　原著論文等……73
(2)　口頭発表……73

(3)　招待講演 74
(4)　指導依頼＞ 74
(5)　撮影協力＞ 74
5　機構を利用した農学生命科学研究科・他研究科等の研究業績 74
(1)　原著論文 74
(2)　学会発表 75
(3)　招待講演 76
(4)　ワークショップ講演 76

Ⅰ　はじめに

附属生態調和農学機構（以下「機構」と略称）は、東京大学大学院農学生命科学研究科の附属施設のなかでも、メインキャンパスである弥生キャンパスから比較的近い距離にあり、農学部の各専修をはじめとする多くの学生実習に使われるとともに、教員・学生のフィールド研究の場として活用されている。機構は、2010 年 4 月に旧附属農場および旧附属緑地植物実験所の 2 施設を統合し、さらに附属演習林田無試験地（現在の田無演習林）の教育研究機能を組み込むことで設立された。当機構の運営の現状を、以下の 3 つの課題を中心にして総括する。

１　西東京キャンパスの整備

2013 年 3 月に東京大学が決定した「東京大学西東京キャンパス（仮称）整備計画基本構想」では、まもなく着工予定の都道「西東京都市計画道路 3・4・9 号保谷東村山線」により、キャンパスが南北に分断されるとともに、一部の敷地約 4 ヘクタールを売却等によって手放すことになっている。そのような状況下、平成 27 年度に、西東京市の「東大生態調和農学機構周辺地区地区計画」が策定・公表、一部の用途地域が変更され、加えて、東京大学と文部科学省との間で面積協議が行われたことによって、都市計画道路予定地よりも北側に、建築物を新築することが可能になった。

これまでに基本構想に従い，平成 26 年度には，果樹園と里地里山地区の土木工事が実施されるとともに，13 棟の温室が建設された．平成 28 年度には，格納庫棟および調製施設群の建設が着工され、約 1 年の工期を終え、2017 年 10 月に竣工した。倉庫というと一般的に暗いイメージがあるが、軒先も長くかつ明かり取りの工夫がなされているほか、大きなシャッターではありながら手動で開閉ができるなどの工夫もなされている。

今後であるが、当初取り壊し予定であった農場研究棟については引き続きの利用を図るようにとの指摘を受け、整備計画の変更を余儀なくされている。また、2020 年に予定されている東京オリンピック・パラリンピックの影響を受け建設資材や人件費の高騰が懸念されたことから、平成 28 年度に総合研究・実験棟を中心とした整備計画の見直しを行い、平成 29 年度に面積縮小した形での総合研究・実験棟（約 3000 平米）が決定された。平成 30 年度には基本設計が着手される予定である。その後は演習林地区、水田、南側キャンパスの整備が進められていく予定である。

２　教育・研究へのフィールドの活用の推進

東京大学では、平成 25 年度から、教育の国際化を中心とする「学部教育の総合的改革」を推進している。農学生命科学研究科・農学部では附属施設への各種センサー類、遠隔カメラ、ドローンなどの導入をはかり、フィールド研究・教育への ICT の導入を進めている。フィールドの ICT 化が進むことによって、それらを活用した研究活動も盛んになっている。平成 27 年に新しい五神総長のもとで東京大学が決定した「東京大学ビジョン 2020」の実現のために、「フィールドフェノミクス先端研究拠点の形成」が、平成 28 年度の大学本部の前倒し事業として認められた。農作物の

複雑な形質を ICT 機器で計測し、そのビッグデータにもとづいて遺伝的改良や栽培技術開発を行う研究が機構で既に開始されている。平成 29 年度からは国際フィールドフェノミクス研究拠点形成担当の 2 名の特任教授が配置されるとともに、秋には国際フィールドフェノミクス研究拠点のウェブページが始動した。キャンパス整備計画による圃場の整備とともに、新しい農学研究が展開されることを期待している。

３　社会連携

機構がめざす「生態調和農学」にとって、社会との連携は重要である。機構が立地する西東京市は約 20 万人の住民を擁する都市であり、西東京フィールドは同市の市民にとっては、貴重な緑と憩いの場を提供している。平成 25 年度から機構と西東京市との間に設置された「社会連携協議会」は 3 期めに入り、継続して市民の代表を交えた会合を定期的に開いて、意見交換・情報交換を行っている。2017 年 6 月には多摩地域の拠点科学館である多摩六都科学館との相互協力協定が締結され、「農と食の体験塾」や「こどもサマースクール」などの共催プログラムの実施体制がより強化された。2016 年 10 月から 2017 年 10 月までは、キャンパス整備に伴う建設工事により一般公開などをやむを得ず休止したが、観桜会、観蓮会、ひまわり迷路などの取り組みは継続・実施された。2017 年 12 月には新たに整備された格納庫棟、調製施設群の公開を兼ねて、機構公開セミナーが開催された。

農学の教育研究において、実験室レベルだけでなく、フィールドの活用が盛んになる流れのなかで、実験圃場を有する附属施設の必要性が再認識されるようになっている。当機構では、教育研究に必要となる多様なフィールドを管理するために、教員だけでなく、技術職員等のマンパワーを必要とする。しかし、定数削減や予算削減が続くなかで、機構の機能を強化してゆくには、存在意義を今以上にアピールしてゆく必要がある。そのためには、キャンパス整備を計画的に進める一方で、農学生命科学研究科の内外からの圃場・施設利用や共同研究を増やしてゆき、優れた教育研究上の成果を挙げることが必要である。この年報をお読みの皆様には、ぜひ西東京キャンパスのフィールドを活用した斬新な教育研究を立案・実施していただき、あるいはそれらをご支援いただくことをお願いしたい。

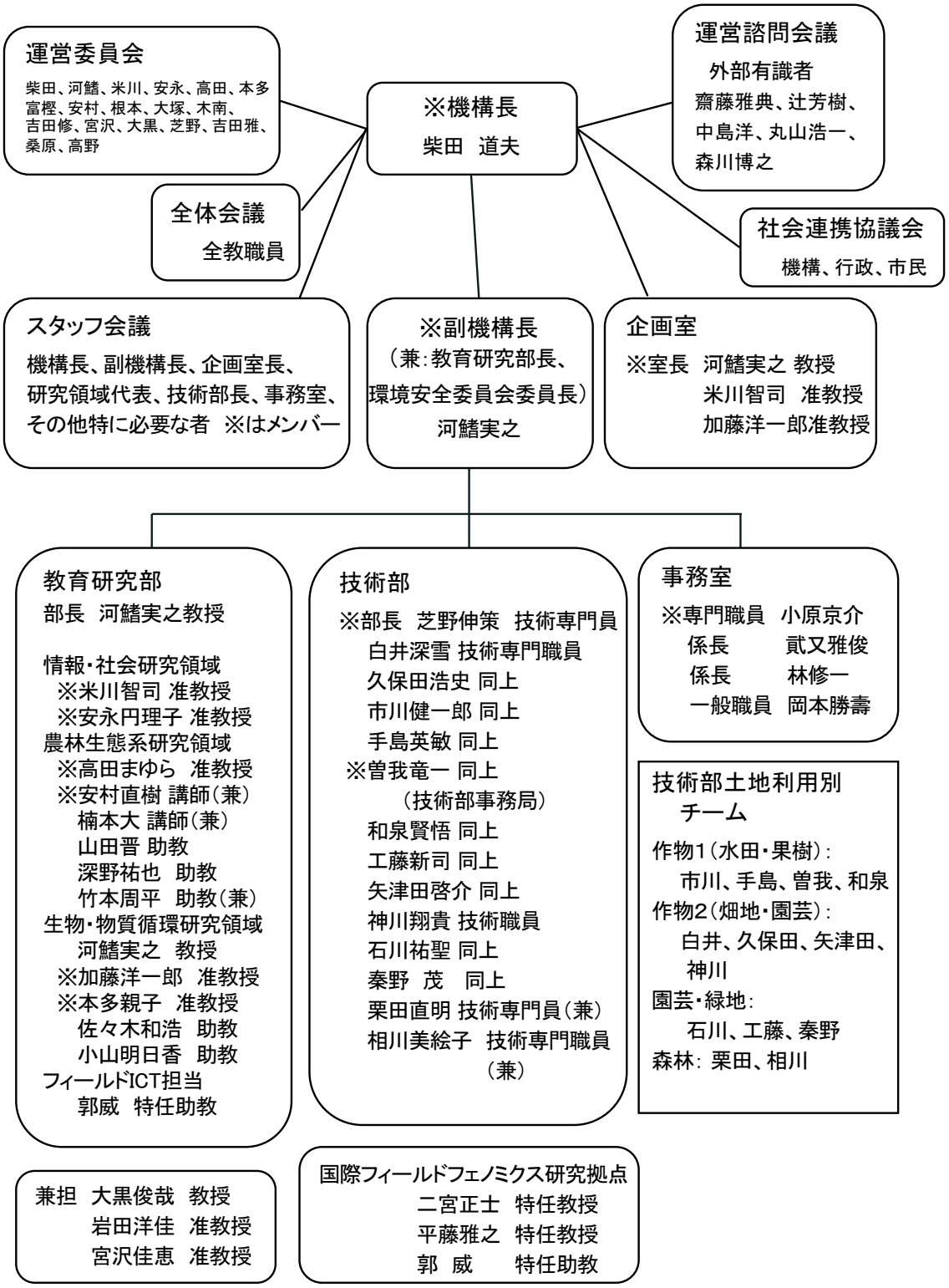
2018 年 3 月 31 日

東京大学農学生命科学研究科 附属生態調和農学機構
機構長　柴田　道夫

II　組織と運営

1　組織・人員構成

東京大学 大学院農学生命科学研究科 附属生態調和農学機構組織図（2018.3.31）



２　庶務事項

(1) 人事事項

1)　採　用

職　　名	氏　　名	発令年月日	備　　考
准教授	加藤　洋一郎	平成２９年４月１６日	
助　教	小山　明日香	平成２９年５月１６日	
准教授	本多　親子	平成２９年１０月１日	
特任研究員	MU YUE	平成２９年１０月１日	特定有期
特任教授	二宮　正士	平成２９年４月１日	
特任教授	平藤　雅之	平成２９年４月１日	

2)　配置換え

職　　名	氏　　名	発令年月日	備　　考
係　長	林　修一	平成２９年４月１日	

3)　昇　任

職　　名	氏　　名	発令年月日	備　　考
技術専門職員	矢津田　啓介	平成２９年４月１日	

4)　休　職（更新）

職　　名	氏　　名	発令年月日	備　　考
一般職員	岡本　勝壽		平成３０年３月３１日まで
准教授	高田　まゆら		平成３０年３月３１日まで

5)　退　職

職　　名	氏　　名	発令年月日	備　　考
技術職員	臼井　真由美	平成２９年１０月３１日	自己都合

(2) その他の庶務事項

平成２９年

４月１日・２日	観桜会、農場博物館特別開館

4月１１日	第１回スタッフ会議、第１回全体会議
4月１１日	FM 西東京「食・農・森」へ出演（青木直大助教：作物学研究室）
4月２４日	第１回利用者ガイダンス（弥生）
4月２５日	第２回利用者ガイダンス・運搬車講習（機構）
5月１６日	第２回スタッフ会議、第２回全体会議
5月９日	FM 西東京「食・農・森」へ出演（溝口勝教授：国際情報農学研究 室）
5月１１日・１２日	全国大学附属農場協議会春季全国協議会（都内）
5月１５日	格納庫棟落成式
5月３０日～１２月	生態調和農学機構・多摩六都科学館共催公開講座 『農と食の体験塾「大豆編」』
6月３日	多摩六都科学館との連携協力に関する協定書を締結 調印式と講演「ロクトサイエンスレクチャー『生態調和農学』が目指すもの～農学の現在・未来」開催
6月１３日	第３回スタッフ会議、第３回全体会議
6月１３日	FM 西東京「食・農・森」へ出演（吉田修一郎准教授：農地環境工 学研究室）
6月２５日	第１回観蓮会・農場博物館特別開館
6月７日～９日	日本植物園協会第５２回大会（大阪市立大学）
7月３日～１４日	安田講堂前庭でのハスの特別展示
7月４日	第４回スタッフ会議、第４回全体会議
7月６日・７日	日本植物園協会技術者講習会（機構）
7月１１日	FM 西東京「食・農・森」へ出演（和泉賢悟技術専門職員）
7月１９日～２１日	ひまわり迷路一般公開
7月２３日	第２回観蓮会・農場博物館特別開館
8月１日	東大農場・演習林子どもサマースクール 2017 ～夏の田んぼと林を探検しよう～
8月９日・１０日	関東・甲信越地域大学農場協議会総会並びに 第８２回研究集会、研修会（千葉大学）
8月８日	第５回スタッフ会議、第５回全体会議
8月８日	FM 西東京「食・農・森」へ出演（小山明日香助教）

8月１４日・１５日	夏季休業状態
8月２９日・３０日	関東・甲信越地域大学農場協議会第４６回技術研修会（新潟大学）
9月１２日	FM 西東京「食・農・森」へ出演（栗田直明技術専門員：田無演習林）
9月１２日	第６回スタッフ会議、第６回全体会議
9月１２日～	西東京フィールド（旧東大農場地区）の見学・農場博物館の再開
9月１９日	調製施設群引き渡し
9月２０日～２２日	職場体験受入れ（田無第一中学校３名）
１０月２日	運営諮問会議
１０月１０日	FM 西東京「食・農・森」へ出演（岩田洋佳准教授：生物測定学研究室）
１０月１０日	第７回スタッフ会議、第７回全体会議
１０月１２日～１月３１日	東大フィールドボランティアの募集
１０月２１日	第１６回東京大学ホームカミングディ企画 「秋の収穫体験会」（機構） 機構の米で作られた甘酒の紹介（弥生）
１０月２４日～２６日	職場体験受入れ（保谷中学校５名）
１１月７日	第８回スタッフ会議、第８回全体会議
１１月１４日	FM 西東京「食・農・森」へ出演（藤本優特任准教授：植物分子遺伝学研究室）
１１月２１日・２２日	東京大学全学技術研修会（刈払機・チェーンソー）（機構）
１１月３０日	運営委員会
１２月２日	機構公開セミナー「新棟（調製施設群・格納庫棟）と農業機械【現地見学会】」
１２月１２日	FM 西東京「食・農・森」へ出演（芝野伸策技術部長）
１２月１２日	第９回スタッフ会議、第９回全体会議

平成３０年

1月５日	生産・環境生物学専攻会議・実習連絡会（機構）
1月９日	FM 西東京「食・農・森」へ出演（石森元幸特任研究員（PD）生物測定学研究室）
1月９日	第１０回スタッフ会議、第１０回全体会議
2月１３日	FM 西東京「食・農・森」へ出演（田野井慶太朗准教授：放射線

	植物生理学研究室）
２月１３日	第１１回スタッフ会議、第１１回全体会議
３月１２日	２０１７年度年次検討会・利用者交流会
３月１３日	FM 西東京「食・農・森」へ出演（加藤洋一郎准教授）
３月１３日	第１２回スタッフ会議、第１２回全体会議

３　会計事項

（1）H29 年度決算報告

1)　大学運営費交付金

収入の部

項目	決算（円）
附属施設経費	20,437,000
教員経費	5,982,000
H28 繰越分	11,872,000
学生経費	132,500
売上	2,243,000
施設利用料等	7,117,863
間接経費振替	12,804,873
学部教育改革推進事業	2,000,000
その他	6,074,100
合計　（ア）	68,663,336

支出の部

項目	決算（円）
農場経費	
光熱水料	9,442,531
燃料費	2,016,032
賃金	7,538,092
保守管理費	4,920,194
通信運搬費	1,709,948
塵芥処理費	607,785
自動車維持費	683,940
図書経費	91,587
安全管理費	479,095

学生実習経費	4,700,680
博物館経費	129,524
育休代替人件費	4,251,638
学部教育改革経費	2,000,000
その他	13,190,683
基盤教育研究費	
教育研究費	9,227,233
繰越金	7,674,374
合計	68,663,336

2)　競争的資金(直接経費)

	H29	H28	H27	H26	H25
科研費分	19,020,000	27,017,000	16,150,000	13,540,000	18,897,403
受託研究分	97,743,000	55,786,277	10,000,000	44,431,760	60,758,467
寄付金・その他	7,609,415	4,884,183	1,732,000	3,450,000	2,100,000
合計	124,372,415	87,687,460	27,882,000	61,421,760	81,755,870

4　運営委員会

構成員：柴田 道夫（機構長），河鰭･実之（副機構長・教育研究部長・企画室長），米川 智司，本多 親子，安永 円理子，加藤 洋一郎（准教授），安村 直樹（講師：田無演習林長），根本 圭介（生），大塚 重人（化），木南 章（経），吉田 修一郎（工，欠席），宮沢 佳恵（国），大黒 俊哉（生圏），芝野 伸策（技術部長），吉田 雅彦（農学系事務部長），冨樫 一巳（演習林長），桑原 正貴(牧場長)，高野 哲夫（アジア）

機構事務：小原 京介、オブザーバー：久保田 浩史

開催：　2017 年 11 月 30 日（木）15:00～16:32

主な内容：

報告事項：平成 29 年度機構の運営について／平成 29 年度運営諮問会議報告／キャンパス整備の現状について（柴田機構長）、平成 29 年度教育，研究の現状について（河鰭教育研究部長）、平成 29 年度社会連携の現状について（米川准教授）、平成 30 年度実習計画について（河鰭教授）

審議事項：なし

5　運営諮問会議

構成員：外部有識者：

齋藤 雅典　東北大学大学院農学研究科教授・附属複合生態フィールド教育研究センター副センター長

辻 芳樹　学校法人辻料理学館理事長・辻調理師専門学校長

中島 洋　株式会社MM総研所長・国際大学グローバルコミュニケーションセンター教授

丸山 浩一　西東京市長

森川 博之　東京大学先端科学技術研究センター教授

農学生命科学研究科：堤 伸浩（副研究科長），

機構：柴田 道夫（機構長），河鰭 実之（副機構長・教育研究部長），芝野 伸策（技術部長），加藤 洋一郎（企画室・記録）

開催：　2017 年 10 月 2 日（月）14:00-17:20

主な内容：

機構概要説明：機構の管理運営・キャンパス整備計画／機構教育研究部の現状と今後の課題／機構技術部の現状と今後の課題

機構の研究・教育成果の紹介：「実験草地における長期生態系試験の経過と意義」（山田　晋 助教）／「機構における圃場履歴管理とデータベース化」（久保田浩史 技術専門職員）

視察・討議：北側キャンパス視察／「北側キャンパスを利用した長期的教育研究」

6　スタッフ会議・全体会議

(1) スタッフ会議

構成員：　柴田 道夫，河鰭 実之，米川 智司，本多 親子（2017 年 10 月から），安永 円理子，高田 まゆら（2016 年 12 月から産休・育休中），加藤 洋一郎（2017 年 5 月から），安村 直樹，芝野 伸策，久保田 浩史，曽我 竜一，小原 京介，根本 浩三（総務課）

開催：　毎月 1 回を原則に，合計 12 回開催（平成 29 年度は原則の通り開催した）.

主な内容：　機構の運営に係わること全般について報告・審議するとともに，意思決定を行う.

(2) 全体会議

構成員：　機構教職員全員

開催頻度：　毎月 1 回を原則に，合計 12 回開催（平成 29 年度は原則の通り開催した）.

主な内容：　機構スタッフ会議及び各委員会での決定事項等の周知と意見交換を行う.

7　キャンパス整備関係

西東京キャンパス（仮称）の整備について前年度に引き続き検討するとともに，順次，整備事業を実行に移している．2017 年度は，格納庫棟と調製施設群の竣工とともに，農産製造室や穀物貯蔵庫などの撤去予定建物について工事を行った．また，委員会メンバーの一部と実務者からなる総合研究・実験棟整備ワーキンググループ（WG）**を随時開催して，総合研究・実験棟の床面積縮小案の策定およびキャンパス整備スケジュールの見直し作業について検討を進め，6 月に田無キャンパス整備計画委員会*を開催して，総合研究・実験棟のレイアウトを策定するとともに，当面の整備スケジュールを確認した．以下にこれまでの経緯を整理する.

東京都がキャンパスを南北に分断する都市計画道路３・４・９号線の建設計画を進めており，東

京大学が 2013 年 3 月に東京都と交わした用地売却契約によって，まもなく（2018 年 5 月頃を予定）道路用地部分を明け渡す必要がある．2013 年 3 月に大学本部から内示されたキャンパス整備の経費を用いて, 2014 年度から本格的な整備が始まっている. これまでに温室 13 棟を新規に建設, 果樹園の整備，旧農場と演習林の両キャンパスにまたがる里地里山エリアの整備，整備上必要な一部樹木の伐採などを進め，希少動植物等を中心にした環境モニタリング調査も継続的に行っている. 一方，西東京市が検討を進めてきたキャンパス周辺の用途地域の変更と地区計画（西東京市「東大生態調和農学機構周辺地区地区計画」）の策定が進展し，2015 年 5 月に決定された．また，東京大学本部と文部科学省との間で行われて来た面積協議も，同年 5 月に決着し，建築物の最大床面積に関して結論が出た．その結果，都市計画道路の北側に，総合研究・実験棟，格納庫棟，調製施設群などの大学施設を建設できるようになった.

2015 年 11 月の田無キャンパス整備計画委員会で検討された格納庫棟，調製施設群については, 2016 年 2 月から実施設計に入り, 10 月より着工し, 2017 年 10 月に竣工した. この間, 併行して, 都市計画道路沿いにある既存建物の撤去工事が行われた．総合研究・実験棟については，当初取り壊しを予定していた農場研究棟（本館）について継続使用を行うよう変更され，さらに 2020 年開催の東京オリンピック・パラリンピックによる建設単価や人件費の高騰などへの懸念から, 2015 年 11 月の田無キャンパス整備計画委員会で検討されたレイアウトにつき，床面積を縮小した改訂案を策定した．2018 年にはプロポーザルを経て設計に入り，2020 年夏頃に竣工予定となっている. 総合研究・実験棟の建設工事が確定することを待って，残りのキャンパス整備について検討実施してゆくことになる．また，都計道の建設について，東京都からの 2018 年 4 月の着工予定，2021 年 3 月の竣工予定との連絡があった．現在も東京都建設局との間で，都市計画道路によって寸断される横断の補償についての交渉が続いているが，当機構としては，井水などのインフラが道路の下を通過できるようにするとともに，適切な場所に横断歩道と信号機が設置されることなどを要求している.

*　田無キャンパス整備計画委員会

構成員：　委員長　柴田道夫教授（機構長），河鰭実之教授（副機構長），富樫一巳教授（演習林長），堤伸浩教授，根本圭介教授，大黒俊哉准教授，加藤洋一郎准教授、安村直樹講師，小林和彦教授，高野哲夫教授（アジア生物資源環境研究センター），松本武祝教授，稲山正弘教授，吉田修一郎准教授

事務局：　米川智司准教授，山田晋助教，芝野伸策技術部長，吉田雅彦事務部長，村岡　俊経理課長，栗原紀寿専門員

小林拓志経理課予算・決算チーム係長，小原京介専門職員，貳又雅俊係長，

開催：　2017 年 6 月 28 日（水）10:00～11:10　フードサイエンス棟　第 1 会議室

主な内容：総合研究・実験棟のレイアウトについて／今年度の実施事項について／今後のスケジュールについて

**総合研究・実験棟整備ワーキンググループ（WG）

柴田道夫，米川智司，高野哲夫，安村直樹、村岡　俊，小林拓志

８　圃場・施設委員会

構成員：　加藤洋一郎，河鰭実之，米川智司，安永円理子(実験室管理担当)，山田晋，佐々木和浩(実験室管理担当)，深野祐也，芝野伸策，久保田浩史，曽我竜一，小原京介，野元尚（事務局）
開催：　秋冬作（9/25）と春夏作（3/6）の年 2 回開催．また，臨時の案件を隔週でメール審議．
主な内容：　圃場・施設利用申請の審議，実験室および共用物品・施設管理に関する意思決定とルールの策定．
圃場施設利用者：　別添

9　環境安全委員会

構成員：河鰭実之、曽我竜一、安永円理子、楠本大、佐々木和浩、芝野伸策、
、芝野伸策、和泉賢悟、白井深雪、石川祐聖、小原京介　ほかオブザーバー

主な内容：独自に、「東京大学大学院農学生命科学研究科附属生態調和農学機構環境安全委員会規程」を設け、委員会が中心となって、機構の環境整備及び安全に関する事項を審議し、その運営に当たっています。委員長は副機構長が務め、委員は、衛生推進者、技術部長、各グループ安全管理担当者、事務担当者、その他若干名の教員（特任教員等含む）及び技術職員から構成され、西東京フィールドに所在するアジア生物資源環境研究センターの各研究室及び機構の学生等もオブザーバーとして参加しています。独自に、全関係者を対象とした「安全ガイダンス」の実施や，「農薬管理取扱要領」、「医薬用外毒物劇物危害防止規定」、「圃場作業・物品等管理ガイドライン」、「農産物販売マニュアル」などを規定しています。

多くの化学物質や機器が使用され、野外作業も多い機構の教育研究活動の中にはさまざまなリスクが潜んでいます。「全ての活動は安全な環境があってこそ成立する」という理念のもと、さまざまな活動の前提として安全をしっかりと確保することが、それぞれの構成員の責務と認識し活動しています。

(1) リスクアセスメント等実施した内容

・危険有害要因の洗い出し（5～6 月）
・リスク低減対策の検討（5～6 月）
・産業医巡視における指摘事項への対応（6 月～）
・技術部による作業開始前の安全検証（通年）
・独自の講習会実施による安全への注意喚起（下記参照）
・必要な講習会への参加及び資格の取得による能力向上（下記参照）
・IC カードによる入室システムの継続により実験室で不明試薬等を放置される事態がなかった。
・定期的に農薬や試薬の棚卸しを行い、適切に管理されているか検証した。
・無人航空機の使用に関するマニュアルについて、墜落事故を受けて再度見直しを行った。
・勤務時間内での緊急連絡先（機構事務室電話）を表示したシールを継続して配布した。
・夜間・休日の在館者の把握のためグーグルカレンダーによる管理を継続して実施した。
・農薬庫が新たに設置され農薬の保管場所を移管した。また、それに伴い農薬管理取扱要領や医薬用用外物・劇物危害防止規定等の規則を改定した。

その他、環境安全に関する今年度のデータは下記のとおりである。

(2) 環境安全に関するデータ

1)　災害統計　６件

○休業　なし

○不休業　　２件

・9/27、高枝鋏で樹木を切った際、落下した枝が右腕に当たり裂傷４針。

・11/14、ビットを研磨する際、卓上グラインダーの刃に当たり右人差し指を擦傷。

○人的災害なし　４件

・7/19、出張先において、レンタカーを駐車場内に入れる際に電柱に接触しレンタカーの後部バンバーがへこみ、ヘッドライトにひびが入った。

・9/27、運搬車で出庫の際、シャッターに接触しシャッターが一部損傷。

・10/30、公用車で狭い道路での左折時、土壁に擦り車体を一部損傷。

・11/2、無人航空機が自動飛行中に操縦不能となり敷地外に落下、機体を損傷。

2)　安全衛生教育実施状況（機構で開催）

- 利用者ガイダンス　4/24（96 人）、4/25（33 人）
- 運搬車講習　4/25（6 人）、5/26（6 人）
- 運搬車購入時取扱い操作説明会　4/20（13 人）
- 格納庫取扱説明会　5/15（19 人）、6/12（12 人）
- マニュアスプレッター取扱説明会　7/26（11 人）
- 播種機取扱説明会　7/26（11 人）
- コンバイン取扱説明会　8/29（16 人）
- 調製施設群引き渡し説明会　9/19（19 人）
- 穀物乾燥機等取扱説明会　10/26（6 人）
- 播種機取扱説明会　10/20（12 人）
- 教室系技術職員研修「刈払機、チェーンソー等の点検研修及び安全講習」11/20～22（7 人）（機構、田無演習林で開催）

3)　講習会・研修等受講状況

- フォークリフト（１t 未満）特別教育　9/7・9/8（1 人）
- 東京都農薬管理指導士更新研修　12/7（1 人）、2/1（5 人）

4)　職場巡視実施状況

- 産業医巡視　　6/9　西東京フィールド
  衛生推進者巡視　産業医巡視に同行（旧農場地区のみ）

5)　その他安全衛生管理活動状況

- 緊急連絡先（携帯版）の更新　４月
- 安全衛生関係の資格確認　４月
- 災害対策本部、自衛消防隊の更新　4/18
- 医薬用毒物・劇物危害防止規定の改定　4/18
- 平成 29 年度教育研究マネジメントシステム説明会　4/27
- 西東京市危機管理室による広域避難場所の現地確認　4/26

- ハチトラップの設置（１４カ所）　5/8
- 緊急連絡先（本人宛、家族宛）の更新　5/12
- 消防点検　5/17
- リスクアセスメント全体検討会　5/23
- 教育研究安全衛生マネジメントシステムH29 年度書類提出　5/30
- 熱中症対策準備（消耗品の補充、予報掲示の作成）　5 月
- 化学物質リスクアセスメントの更新　6 月
- 熱中症対策の実施　6～9 月
- キャンパス整備工事現場で不明液体瓶の発見、対応　7/12～3/5
- 農薬棚卸し　7/30
- 東京都による水質汚濁防止法の特定施設立ち入り検査　8/2
- 水質汚濁防止法の特定施設の管理要領作成と東京都への提出　8/30
- 防災訓練　11/14
- 農薬棚卸し　11/30
- アスベスト使用機器調査　12 月
- 廃棄試薬リストの提出　12 月
- 農薬管理要領と医薬用毒物・劇物危害防止規定の改定　1/30
- ドローン事故調査委員会の最終報告　1 月
- 農薬棚卸し　2 月
- 試薬棚卸し　2/26
- 農薬登録情報の更新　毎月
- 大掃除　適宜

(3) その効果

・リスクアセスメントの検証に教職員のみならず学生も参加することに加え、産業医と衛生推進者による巡視等により、危険有害要因の所在を定期的にチェックしリスクを低減する意識が全体に浸透している。
・実験室の棚卸しを行い、実験室の試薬や廃液の管理状況改善を継続した。
・機構外利用者の受講率アップのために研究科で機構主催の利用者ガイダンスを実施し、多くの受講者を得た。
・機器取扱いの講習会や説明会等を積極的に開催し、教職員のスキルアップに努めた。

(4) 問題点

・交代した衛生推進者は技術者のため実験室について詳しくない。今後は教員の衛生推進者を養成する必要がある。
・実験室の使用において整理整頓されてきているがさらに良くしていくことが必要である。
・機構内に存在する実験機器や物置等について、データベース化がかなり進んだが一部不明な機器等が残っている。
・無人航空機（ドローン）の墜落事故があり、事故調査委員会を設置して原因究明と再発防止策を検討したが、原因については確定できなかった。

(5) 来期展開方針

・機構主催の利用者ガイダンスについて、例年同様に機構内の全員と機構外の利用者が確実に受講するよう実施する。

・マニュアルの整備と使用方法のガイダンスや日常的指導による徹底ならびに学生についての指導教員自身の自覚と指導の徹底。
・機構内における実験機器や物置等について、引き続きデータベース化を進めるとともに管理者を明確にしていく。
・衛生推進者（教員）の早急な養成。
・夜間・休日での在館者の把握をグーグルカレンダーで行うことを継続する。

III 社会連携活動

1　社会連携協議会

概要：月に1回程度、本機構や西東京市庁にて開催し、本機構と市民、自治体との社会連携のあり方、とくに、キャンパス整備後の南側キャンパスでの社会連携活動について意見交換を行っている。

2017年度活動概要：

開催日： 5月16日、6月13日、7月4日、8月8日、9月12日、10月10日、11月7日、12月19日、1月16日、2月20日、3月13日（予定）

ホームページ：

http://www.isas.a.u-tokyo.ac.jp/detail/index.php?id=181

構成員：公募選出市民委員11名、西東京市、安永円理子准教授、深野祐也助教

2　社会連携委員会

概要：機構の社会連携活動に係わること全般について、報告、審議と意思決定（スタッフ会議審議事項の決定)。具体的には、観桜会、ひまわり畑プロジェクト、ハス見本園一般公開、観蓮会、ホームカミングデイの次年度日程案の策定等。

2017年度開催概要：

開催日：3月7日

構成員：米川智司准教授（委員長)・河鰭実之教授・安村直樹講師・山田晋助教・芝野伸策技術部長・和泉賢悟技術専門職員・工藤新司技術専門職員・臼井真由美技術職員（10月31日迄)・小原京介専門職員

3　社会連携活動

(1) 農場博物館

展示物概要：1878（明治11）年1月に農学校内に開場して以来、駒場農学校、東京農林学校、帝国大学農科大学附属、東京帝国大学農科大学附属、東京帝国大学農学部附属、東京大学農学部附属、東京大学大学院農学生命科学研究科附属へと、変遷してきた農場で実際に用いられてきた歴史的価値が高い農機具などに加え、農学校や農学部などで教材として収集されてきた農機具および教科書などに利用された文化財的価値のある図解や書籍を中心に、「農業」・「食」の原点をテーマとした展示を行っている。

運営の特徴：本博物館は、「東大フィールドボランティア」のサポートによって運営されている。「東大フィールドボランティア」は、2007年の本博物館のオープンに備えて「東大農場ボランティア」として公募によって組織されたのが発祥で、2010年4月の生態調和農学機構の設立に合わせて「東大フィールドボランティア」に改称され、現在に至っている。その活動は、博物館ガイド、史料の修復や展示企画、周辺の美化活動などに加え、ガイド内容の向上に資するための史料の勉強会など、様々な自主活動を自律したボランティア会をつくって展開している。

2017年度開催概要：

開館日：毎週火曜日・金曜日　10：15～14：45　（キャンパス整備工事のため、9月12日から再開。冬季閉館；12月26日～2018年2月27日）

開館日数：48日（内臨時開館日数：11日（観桜会・観蓮会・ひまわり迷路・ホームカミングデイ等）

来館者数：2,158名（累計：33,864名）（前年比：38%減）

東大フィールドボランティア会員数 28 名（2018 年 3 月 31 日現在）
東大フィールドボランティア募集：10 月 12 日～1 月 31 日、応募者数；5 名
東大フィールドボランティア研修会・養成講座（新規応募者対象）：3 月 6 日
企画展「耕耘用機械の発達史」
ホームページ：

- http://www.isas.a.u-tokyo.ac.jp/museum/
- http://www.isas.a.u-tokyo.ac.jp/detail/index.php?id=183
- http://www.isas.a.u-tokyo.ac.jp/detail/index.php?id=192
- http://www.isas.a.u-tokyo.ac.jp/detail/index.php?id=194
- http://www.isas.a.u-tokyo.ac.jp/detail/index.php?id=197
- http://www.isas.a.u-tokyo.ac.jp/detail/index.php?id=199

取材・報道等：

- 「楽しい大学に出会う本 首都圏版（ぴあ MOOK）」7 月 28 日発行，pp.31，ぴあ，東京
- 「ほとんど 0 円大学　おとなも大学を使っちゃおう」『大学ミュージアム図鑑』http://hotozero.com/museum/東京大学-農場博物館/（WEB コンテンツ）
- 「淡青」（東京大学広報誌）35，9 月発行，表紙・どびら・裏表紙，東京大学
- 「プレシャス」11 月号『誌上文化大学』10 月 7 日発行，pp.416，小学館，東京
- 「サンデー毎日」11 月 12 日号，10 月 31 日発行，巻末カラーグラビア『ON and OFF　大学博物館で「知」と出会う』，毎日新聞出版，東京
- 子どもとお出かけ情報サイト「いこーよ」『農場博物館』https://iko-yo.net/facilities/37336，アクトインディ（WEB コンテンツ）

担当教職員（農場博物館運営委員会）：米川智司准教授・和泉賢悟技術専門職員・神川翔貴技術職員・工藤新司技術専門職員
協力：技術部、事務室

(2) ひまわり畑プロジェクト

概要：旧農場時代の 2007 年度から昨年度まで、西東京市との共同事業「ひまわりプロジェクト」は、観察と実践を通じて、植物の成長過程や原材料と食物との関係等を実感させることで、栽培から食までの一貫した食育を行ってきた。しかしながら、今年度から西東京市が事業を中止したため、昨年度まで西東京市が委託していた市民活動団体「ひまわりプロジェクト」の有志の協力を得て、機構事業として成立するかを施行した。

2017 年度活動概要：

栽培概要：品種；春りん蔵、面積；10a、条間 70cm×株間約 35cm

実施日および内容：

5 月 22 日（月）；機械（点播機）播種および施肥

6 月 1 日（木）；防鳥網外し、迷路作り

6 月 2 日（金）～7 月 18 日（火）；中耕除草等の管理作業・ひまわり迷路整備

7 月 19 日（水）～21 日（金）；ひまわり迷路公開　来場者数；588 名

7 月 23 日（日）；「観蓮会」ひまわり迷路公開　来場者数；550 名　総来場者数；1,460 名（前年

比：70%減）
10 月 5 日（木）; 機械（普通コンバイン）収穫
次年度予定；搾油
ホームページ：

- http://www.isas.a.u-tokyo.ac.jp/detail/index.php?id=195

担当教職員：米川智司准教授・臼井真由美技術職員（10 月 31 日迄）・曽我竜一技術専門職員・工藤新司技術専門職員・和泉賢悟技術専門職員
協力：技術部・事務室

(3) ハス見本園

概要：`大賀蓮´ に名を残している大賀一郎が、東京大学の出身で理学博士の称号も東京大学から授かっており、その縁もあって、千葉市旧検見川町の発掘地に隣接していた農学部附属緑地植物実験所で、1965（昭和 40）年ころから観賞用ハスの収集と栽培が始められ、観賞用ハス品種の書物の執筆や、新たな品種の作出にも取り組んできた。その後、2010 年に本機構に改組され、ハス見本園も検見川地区から西東京フィールドへ移転したが、新品種の作出を含めた教育研究は継続されている。本機構発足の年に出願した 2 品種のうち、`緑地美人´が翌 2011 年に東京大学の名で初めて品種登録され、現在でも唯一の登録品種である他、200 種以上を展示・保存している。附属緑地植物実験所当時からの観蓮会に加え、2015 度から東大フィールドボランティアのガイド活動による開花期の一般公開を開催している。本年度はキャンパス整備工事のため、平日一般公開は中止となり、替りに観蓮会を日曜日に 2 回開催した。なお、昨年新たに品種登録された「月のほほえみ」が観蓮会と本郷キャンパス安田講堂前庭の特別展示で公開された。
2017 年度開催概要：
観蓮会：6 月 25 日（日）　7：00～11：30
来園者数：251 名（前年比：77%減）
観蓮会：7 月 23 日（日）　7：00～11：30
来園者数：1,110 名（前年比：14%減）
ホームページ：

- http://www.isas.a.u-tokyo.ac.jp/lotus/
- http://www.isas.a.u-tokyo.ac.jp/detail/index.php?id=192
- http://www.isas.a.u-tokyo.ac.jp/detail/index.php?id=193
- http://www.isas.a.u-tokyo.ac.jp/detail/index.php?id=194
- http://www.a.u-tokyo.ac.jp/event/2017/20170616.html（農学生命科学研究科）

担当教職員：芝野伸策技術部長・白井深雪技術専門職員・工藤新司技術専門職員・石川祐聖技術職員・久保田浩史技術専門職員・市川健一郎技術専門職員・曽我竜一技術専門職員・和泉賢悟技術専門職員・矢津田啓介技術専門職員・臼井真由美技術職員・米川智司准教授・小原京介専門職員・貳又雅俊係長・大岡聡技能補佐員・野元尚事務補佐員
協力：技術部・事務室・教育研究部

(4) 観桜会

概要：生態調和農学機構の正門通りには、約 200m にわたり桜（ソメイヨシノ（染井吉野））が新旧 2 列に植樹されている。古い方の桜並木の推定樹齢は約 70 年で 15 本あり、新しい方の桜並木

の推定樹齢は約 40 年で 12 本ある。本機構では、旧東大農場時代の 2000 年から、桜の開花時の土曜日・日曜日の一般公開を行ってきた。当日は、農場博物館も特別開館したが、天候に恵まれず、来場者は例年より少なかった。また、本年度より市民団体で構成されてきた観桜会実行委員会への協力要請を打ち切った。
一方、今年度は 2018 年の 1 日目の観桜会も実施され、満開時は少し過ぎたものの、天候に恵まれて盛会であった。
2017 年度開催概要：
開催日時：4 月 1 日（土）・2 日（日）10：00～15：30
来場者数：1,645 名（前年比：17%減）（2017 年開花時：877 名（前年比：55%減））
ホームページ：

- http://www.isas.a.u-tokyo.ac.jp/detail/index.php?id=183
- http://www.isas.a.u-tokyo.ac.jp/detail/index.php?id=209
- http://www.isas.a.u-tokyo.ac.jp/detail/index.php?id=210

担当教職員：芝野伸策技術部長・白井深雪技術専門職員・和泉賢悟技術専門職員・市川健一郎技術専門職員・矢津田啓介技術専門職員・工藤新司技術専門職員・小原京介専門職員・貳又雅俊係長・林修一係長・米川智司准教授・山田晋助教・技術部・事務室
協力：東大フィールドボランティア会

(5) 農と食の体験塾　大豆編

概要：市民の発案で、市民がダイズの播種から収穫までの栽培や調理を体験し、ダイズについて幅広く学ぶための企画を 2014 年度から実施している。また、一般品種に加え、在来品種や納豆用など特別の目的に育種された品種も 12 系統を合わせて栽培し、品種間の比較を行っている。栽培指導は、本機構教職員に加え、市民委員である農家や市内の一般農家が行っている。栽培体験だけではなく、本機構教職員が講師となって座学も交えている。
2017 年度活動概要：
参加者数：23 名（一般公募）　、11 名（実行委員）、計 34 名
実施日および内容：
5 月 30 日　オリエンテーション、講義 1：日本の豊かな食をさらに豊かに（二宮正士特任教授）
6 月 6 日　選粒、大豆図鑑作成（多摩六都科学館）
6 月 16 日　畝立て、播種
6 月 27 日　間引き、除草作業、講義 2：大豆について（二宮正士特任教授）
7 月 4 日　ネット外し、間引き、除草作業
7 月 19 日　除草作業、追肥、意見交換ワーク、講義 3：農薬と害虫防除について（手島英敏技術専門職員）
7 月 31 日　除草作業
8 月 22 日　除草作業
9 月 20 日　枝豆の収穫と試食
10 月 3 日　収穫作業
10 月 24 日　収穫作業、講義 4：ポストハーベストについて（安永円理子准教授）
11 月 7 日　大豆の脱穀作業
11 月 24 日　大豆の脱穀作業
11 月 28 日　調理実習（多摩六都科学館）
12 月 19 日　修了式（学生宿舎）

2 月　5 日　大豆の吸水作業（学生宿舎）（オプション）
2 月　6 日　豆腐作り実習（多摩六都科学館）（オプション）
2 月 20 日　味噌づくり実習（多摩六都科学館）（オプション）

ホームページ：

- http://www.isas.a.u-tokyo.ac.jp/detail/index.php?id=185

担当教職員：安永円理子准教授・手島英敏技術専門職員

共催：多摩六都科学館
協力：西東京市内農業者、西東京市農地保全協議会関係者、市民実行委員

（6）東大農場・演習林子どもサマースクール 2017

「夏の田んぼと林を探検しよう」
概要：小学生及び保護者の希望者を対象に、東大西東京フィールド(農場・演習林)内での体験的学習活動と大学教員等によるミニ講座を行い、生態調和農学機構(農場)・田無演習林の存在や教育・研究活動の意義について理解を広め深める一助とするとともに、将来における機構・演習林での社会連携事業の実現につなげていくため、キャンパス整備中の制約下での実現可能な範囲で実施する。
開催日時：2017 年 8 月 1 日
講師：深野祐也助教、佐々木和浩助教、小山明日香助教、楠本大講師
主催：東大農場・演習林子どもサマースクール 2017 実行委員会、東京大学生態調和農学機構、多摩六都科学館
後援：西東京市
担当教員：安永円理子准教授、深野祐也助教

（1）機構公開セミナー

「新棟（調製施設群・格納庫棟）と農業機械【現地見学会】」
開催日時：12 月 2 日（土）午後 1 時～午後 3 時
講師：米川智司准教授
実演等：市川健一郎技術専門職員・曽我竜一技術専門職員・矢津田啓介技術専門職員・工藤新司技術専門職員・和泉賢悟技術専門職員
参加者数：21 名
ホームページ：

- http://www.isas.a.u-tokyo.ac.jp/detail/index.php?id=200

（2）秋の収穫体験会

<u>概要</u>：本学卒業生とその家族を対象としたホームカミングデイ行事とともに、現教職員とその家族も対象とした本機構の学内周知向上に資する目的で2014年度から実施している。エコール辻 東京の協力の下、昼食には本機構産の農作物を使用した食材の料理を提供している。
<u>2017年度開催概要：</u>
開催日：10月21日（土）
参加者数：卒業生および教職員とその家族22名（雨天のため半数強がキャンセル。前年比：42%減）
内容：カキの収穫、干し柿の作成、渋柿の脱渋、サツマイモの収穫、農場博物館の見学、格納

庫・農業機械（乗用トラクタ・コンバイン・乗用管理機等）見学
ホームページ：
- http://www.isas.a.u-tokyo.ac.jp/detail/index.php?id=198

企画：技術部
協力：エコール 辻 東京（理事長・教員・学生。メニューの策定、調理、給仕等、昼食全般を担当）
担当教職員：柴田道夫機構長・河鰭実之教授・米川智司准教授・安永円理子准教授・本多親子准教授・深野祐也助教・小山明日香助教・芝野伸策技術部長・曽我竜一技術専門職員・市川健一郎技術専門職員・和泉賢悟技術専門職員・久保田浩史技術専門職員・矢津田啓介技術専門職員・工藤新司技術専門職員・臼井真由美技術職員

（3）職場体験

概要：研究補助や圃場管理等の業務体験機会を毎年提供してきている。
2017年度開催概要：
受入校等：西東京市立田無第一中学校 2年生　3名
期間：9月20日（火）～9月22日（木）
担当教職員：白井深雪技術専門職員・臼井真由美技術職員・石川祐聖技術職員・工藤新司技術専門職員・安永円理子准教授・小山明日香助教・市川健一郎技術専門職員・和泉賢悟技術専門職員・曽我竜一技術専門職員・手島英敏技術専門職員

受入校等：西東京市立保谷中学校 2年生 5名
期間：10月24日（火）～10月26日（木）
担当教職員、市川健一郎技術専門職員・久保田浩史技術専門職員・臼井真由美技術職員・矢津田啓介技術専門職員・加藤洋一郎准教授・郭威特任助教・石川祐聖技術職員・工藤新司技術専門職員・和泉賢悟技術専門職員・白井深雪技術専門職員

4　一般利用

（1）旧農場

火曜日～金曜日（祝日・年末年始を除く）午前9時～午後4時30分に、見学のための公開を行っており、例年は年間約10,000名の来場があるが、本年度はキャンパス整備工事のため、9月12日からの公開となった。

（2）田無演習林

月曜日～金曜日（祝日・年末年始を除く）午前9時～午後4時30分に、見学のための公開を行っており、年間3,000名以上の来場がある。

IV 技術部

1　業務実績

技術部は、『組織力』を高めるを基本方針として日々の業務を遂行した。具体的には、教育・研究に係る技術支援要請に対する組織対応・組織構築と技術職員個々のレベルアップを図るための研鑽である。

「組織力」を高めるには、技術職員相互の信頼と、情報の共有が不可欠である。毎日の『朝の打ち合わせ』と月 2 回の『業務調整会議』を行い、意志の疎通と情報の共有を図っている。『朝の打ち合わせ』は、技術職員全員による始業時の会合で、各種会議の報告、関連事項の周知、各自の当日行う業務と危険を伴う場合のリスクとその軽減策などについて報告している。『業務調整会議』は、技術部全員で行い、所属以外のグループの業務進捗状況を把握し、協力予定などを相互に確認することにした。

キャンパス整備計画で、今年度は格納庫棟・調整施設棟が完成した。新規の農業用機械・調整施設・什器等の機種選定を行い、納入検査を行った。完成した格納庫棟・調整施設棟に機械・農具・資材の移動を行った。

教育・研究支援の遂行

基本となる圃場の維持管理の他、学生実習における教育補助業務としての学生への技術指導と研究者への技術支援を行った。

研究利用者からの各種支援要請は、技術部事務局に対して申請し、組織として対応している。

キャンパス整備計画の建物建設現場で 7 月 20 日と 7 月 27 日に過去に埋設投棄された農薬ビン等が発見された。残る農薬ビン発掘のため、技術部全員で手掘りで周辺を発掘した。発掘分別したものは、液体入りのビン等 106 本、空ビン等 83 本、ガラス片 60 リットル、粉体固形状の農薬と土壌 24 リットル、汚染が疑われる土壌フレコン 8 袋（8 トン）となった。化学物質分析結果はフレコンに入れた土壌も周辺土壌も環境基準値以下であった。処理は、ビン内の液体は本学環境安全研究センターで行い、空きビンとガラス片、粉体固形状の農薬と土壌 24 リットル、フレコン 9 袋はそれぞれ別の廃棄物処理業者に引き渡した。

また、キャンパス整備で売却予定地の草刈りと不法投棄物の処理の業務が加わった。

台風 21 号が 10 月 23 日に通過し、降雨により温室が水深 20cm の浸水し、圃場が最大 40cm 冠水した。一部の水が演習林北側に滞留し、民有地界ブロック塀で水深 70cm になり、北側の市道に流出した。降水量は 10 月 21 日から 23 日で 250mm であった。その後、10 月 29 日の台風 22 号等の降雨により 3,4 号圃の水が引かず実習に支障が 2 週間程度生じた。

(1) 教育支援（学生実習技術指導）

教育支援実施日数は、応用生物学専修 27 日、農業・資源経済学専修 10 日、生物・環境工学専修 11 日、国際開発農学専修 3 日、緑地環境学専修 21 日、フィールド科学専修 5 日、生命化学・工学専修 1 日である。これらの機構主体の実習以外にも、国際農業開発学コース（IPADS）実習 11 日の技術支援を行った。

教育学部附属中等教育学校の実習は技術部が主体で指導した。附属学校の担当教員が交替し、生徒が希望者から 1 年生全員 120 人が 3 班に分かれ各班が春、秋、冬のみの実習であった。実習曜日が水曜日でた業務が重なる場合がった。

(2) 研究支援

技術部に対する今年度の研究支援依頼数は、101 件であった。

直接の技術支援以外に、研究用に種子・気象データなどの試料・資料分譲も行い、種子・株の更新による品種保存、データの管理でも貢献できたと考えている。

醸造微生物学寄付講座の研究材料として精米 510kg を用意している。

ドローン関連と GPS での測量の業務依頼が増加した。

2　社会貢献（詳細はIII社会連携活動に記載）

(1)「ひまわりプロジェクト」

(2) 中学生職場体験の指導

田無第一中学校と保谷中学校の職場体験を指導した。田無第一中学は 9 月 20 日～22 日に 2 年生 3 名、保谷中学は 10 月 24 日～26 日に 2 年生 5 人を受入れ、教育研究部が 1 日、技術部が 2 日対応した。

(3) 収穫体験会とホームカミングデイ

当日調理を担当してもらう辻調理師専門学校(エコール辻東京)の学生に当日調理に使う野菜の栽培指導と生産物を提供

(4) 実習生産物の販売

学生実習で生産した農産物の販売を行った。品目は、米・果実（モモ、ブドウ、カキ)・イモ類（ジャガイモ、サツマイモ)・観葉植物・花卉（ヒマワリ・キク）である。販売は西東京市の本館と弥生キャンパスで教職員や西東京市や弥生の地域住民に販売した。キャンパス整備で構内の公開を中止しているため、本館での販売も中止した。販売量は果実；600kg、イモ類；1,000kg などである

販売は、学生実習で作付けした農産物であり、収入を目的の一つとして作付けしてはいない。「農産物販売マニュアル」(内規）に沿い販売する農産物は、農薬使用の栽培履歴の表示を行い、品目ごと、栽培履歴の異なる品種毎にサンプルを 3 年間保存している。

また、観葉植物の貸出は学内向けに行った。２か月ごとに鉢を交換した。

3　安全衛生

事故のない安全な業務の遂行と快適な労働環境の整備が重要である。

技術部として安全の確保に留意した事柄について述べる。

(1) 災害・ヒヤリハット

安全ガイダンスの運搬車講習は技術部が主体で講習を行った。

(2) 機械作業

機械作業はリスクが高いことから、事故防止のために、始業前 TBM の実施、安全日誌の提出を義務づけている。TBM の実施は複数の職員が関わる場合は、朝の打ち合わせ時以外で作業前に行う。

「安全日誌」の提出は、機械作業、農薬散布など危険を伴うと判断される業務について義務付けたもので、内容は、作業前の服装や機械類の使用前チェック、健康状態のチェック、作業中の見学者への対処の有無などを報告するもの。

(3) 安全ガイダンス

利用者に対する安全ガイダンスで、農薬の取り扱い、環境安全、施設利用の方法を説明した。また、運搬車講習では安全操作について指導を行った。運搬車講習は外国人利用者に対しても行った。

(4) 整理、整頓、清掃、清潔

安全衛生の基本であるこの４S を今年度も心がけた。今年度もできるだけ毎月機構とアジア研の教職員学生院生研究員等全員で出入り口、居室、講義室等を清掃した。また、毎朝の技術職員室・休憩室の清掃を実行した。

4　研修

教育研究支援の業務遂行のために研修を奨励した。教育支援でもプレゼンテーション能力が求められ、研究過程を理解するためにも研究発表・業務発表を奨励した。情報収集能力、コミュニケーション能力の向上と視野を広げ仕事の相対化・客観視ができるようになることを期待した。

日本植物園協会主催の平成 29 年度第 1 回技術者講習会が平成 29 年 7 月 6 日～7 日に機構で開かれた。対象者は当該協会加入の植物園技術者と個人で 25 人の参加があった。この講習会の企画・運営を技術部が主体に行い、講義の一部も担当した。

東京大学教室系技術職員研修 刈払機、チェーンソー等の点検研修および安全講習が平成 29 年 11 月 20 日～22 日に機構と演習林で開かれた。対象者は全学の教室系技術職員で 7 人の参加があった。この講習会の企画・運営を技術部が主体に行い、講義・実習を担当した。

田無演習林で関東甲信越地区大学演習林等技術職員研修「市民を対象としたイベント企画～伝える技術とリスク管理～」が 2017 年 11 月 8～9 日に実施され、技術職員 2 名が講師として指導した。

奨励研究（平成 29 年度）採択はなかった。

第 2 回東京大学技術発表会が 2 月 15-16 日に駒場キャンパスで開催された。技術職員 13 人が参加し、5 題をポスターで共同発表した。

(1) 国内研修

＜研修＞

・種苗審査会（ほうれんそう）

場所：東京都農林総合研究センター　平成 29 年 4 月 17 日

参加者：白井、久保田、臼井

・平成 29 年度大学附属農場協議会　教育シンポジウム

場所：日本学術会議講堂　平成 29 年 5 月 12 日

参加者：久保田

・日本樹木医会群馬大会でのポスター発表および樹木医講演会聴講

（平成 29 年度　（前期）東京大学教室系技術職員学外技術研修）

場所：前橋テルサ　平成 29 年 6 月 2 日

参加者：相川

・種苗審査会（とうもろこし）

場所：東京都農林総合研究センター　平成 29 年 7 月 6 日

参加者：久保田

・公益社団法人日本植物園協会　平成 29 年度第 1 回技術者講習会

場所：生態調和農学機構　平成 29 年 7 月 6 日～7 日

参加者：石川、工藤、大岡

・平成 29 年度関東・甲信越地域大学農場協議会第 82 回研究集会

場所：千葉大学環境健康フィールド科学センター　平成 29 年 8 月 9 日～10 日

発表者：曽我

参加者：芝野、白井、久保田、市川、手島（9 日）、工藤（9 日）、和泉、矢津田、石川（9 日）、臼井、大岡

・平成 29 年度関東・甲信越地域大学農場協議会第 46 回技術研修会

場所：新潟大学農学部　平成 29 年 8 月 24 日～25 日

参加者：市川

・平成 29 年度園芸学会　秋季大会

（平成 29 年度　（前期）東京大学教室系技術職員学外技術研修）

場所：酪農学園大学　平成 29 年 9 月 1 日～3 日

参加者：石川

・在来大豆視察

場所：山形県内　平成 29 年 9 月 7 日～9 日

参加者：手島

・公開シンポジウム　魅力ある生産農学教育を目指して

場所：日本学術会議講堂　平成 29 年 9 月 8 日

参加者：芝野、白井、久保田、工藤、和泉、石川

・名古屋議定書の国内措置（ABS 指針）に関する説明会

場所：弥生キャンパス 3 号館　平成 29 年 9 月 19 日

参加者：石川

・佐賀県農業大学校視察

場所：佐賀県農業大学校　平成 29 年 9 月 20 日

参加者：久保田、矢津田

・全国大学附属農場協議会　秋季大会

場所：ホテルグランデはがくれ（当番校：佐賀大学）平成 29 年 9 月 21 日～22 日

参加者：久保田、矢津田

・緑地実習 庭園研修

場所：京都市内　平成 29 年 9 月 22 日～24 日

参加者：工藤、石川

・全国大学演習林協議会　秋季総会　森林管理技術賞（特別功労賞）受賞式

場所：新潟大学附属フィールド科学教育研究センター

・森林生態部佐渡ステーション　平成 29 年 9 月 28 日～29 日

参加者：栗田

・第 20 回関東甲信越地区大学演習林等技術職員研修

場所：田無演習林　平成 29 年 11 月 8 日～9 日

参加者：栗田・相川

・平成 29 年度技術職員等試験研究・研修会議

場所：樹芸研究所　平成 29 年 12 月 7 日～8 日
発表者：栗田
・基盤データ整備委員会 GIS 部門　平成 29 年度 GIS 整備指導研修
場所：田無演習林　平成 30 年 1 月 30 日～2 月 1 日
参加者：栗田、相川、久保田
・第 5 回　分析技術グループ研修
「水をターゲットにしたフィールドにおける分析技術セミナー」
場所：附属水産実験所　2018 年 2 月 6 日～7 日
参加者：白井、曽我
・第 2 回東京大学技術発表会
場所：東京大学駒場Ⅱキャンパス、生産技術研究所　平成 30 年 2 月 15 日～16 日
ポスター発表者：相川、白井、曽我、石川
参加者：技術職員全員

＜環境安全関連＞
安全ガイダンスおよびトラクターなどの農機の説明会は除く。
・フォークリフト（１ｔ未満）特別教育
場所：コマツ教習所　平成 29 年 9 月 7 日～8 日
参加者：矢津田
・平成 29 年度　東京大学教室系技術職員研修
刈払機、チェーンソー等の点検研修および安全講習
場所：生態調和農学機構、田無演習林　平成 29 年 11 月 20 日～22 日
講師：市川
参加者：相川、手島、大岡、石川
・東京都農薬管理指導士更新研修
場所：国立オリンピック記念青少年総合センター　平成 29 年 12 月 7 日
参加者：石川
場所：東京自治会館　平成 30 年 2 月 1 日
参加者：手島、曽我、和泉、秦野

５　グループ別活動概要

（1）作物チーム１　（市川・曽我・和泉・手島）

平成 29 年度の活動評価

1.　年度当初の問題点と対応

水田

1）　コンクリート水路の劣化。整備待ち

2）　鳥獣害（スズメ、カモ）：ガムテープを張りネットと支柱との隙間をふさぐ対策をした。ネットの上からの穂への食害に対しては支柱の本数を増やし、穂とネットの間隔を広くとることで対応した。

果樹

1）　鳥害：1 号圃のカキ・5 号圃のブドウにカラス対策の為、防鳥ネットを張った。

2）　獣害：新設果樹苗の誘引用ヒモをタヌキに切断されたため、入り口に電気柵を設置した。

2.　年度内に新たに生じた問題点と対応

水田

1）　キャンパス整備に伴い、水田周囲建物の解体が行われたため、温室等へ資材の移動を行った。井戸ポンプ置き場の改修が行われた。

2）　水田浅井戸ポンプの吐出量が低下していたため、ポンプ置き場改修とともに交換を行った。

果樹

1）　2 号圃のブドウハウスに湿害防止のため、天幕ビニルを張った。

2）　ハウスのマイカ線がタヌキに多数切断されたため、被害防止のため塩ビ管を取り付けた。

3）　２号圃防風ネットの下部、数箇所がタヌキにより破られたため、金網で補修した。

3.　その他

1）　新型コンバイン納車

2）　イネ調製施設納入

3）　附属中学校実習対応

4）　関甲信参加（千葉大 8 月 9 日～10 日）

5）　ホームカミングデイ対応（10 月 21 日）

平成 29 年度活動計画

研修会等への参加

奨励研究への応募

(2) 作物チーム２　（白井・久保田・矢津田・神川・臼井～H29.10.31）

平成29年度の活動評価

1. 年度当初の問題点
   1) 附属中等学校の実習に対応するため業務負担が増した(応用生物学専修の実習と曜日が重なり、実習に参加する生徒の数も多く、対応するための人員が多く要求された)
   2) 圃場・樹林で売却予定地とされた地所が広く、除草など管理の手間が増えた
   3) ランの生育不良・衰弱

2. 解決できた問題点・その方法
   1) 附属中等学校の実習は他チームとの連携・協力で今年度は対処した。次年度は学生実習と曜日が重ならないよう調整し、参加生徒数が減り改善されると見込まれる
   3) 実習用のオンシジウムを中心に、弱った株を植え替え戸外の木陰に移動(避暑)させた
   →ハウス移動以来、成長が止まり気味で開花していなかったのが開花するようになった

3. 解決できなかった問題点とその理由
   2) キャンパス整備で売却地は売却が進まず現状のままで、草刈や不法投棄物の処理が必要であった。土飛散防止や景観維持・雑草防止も兼ねて6号圃にひまわりを栽培した。他にもそういった圃場があり完全解決とまではいかなかった

4. 年度内に生じた問題点とその対応
   1) 台風21号(H29.10.22) の影響で、3号圃とハウスが冠水、A2・A7ハウスは水深20cmの浸水、3号圃は水深40cm の浸水。作業や管理に遅れは出たものの被害は軽く済んだ。A7ハウスは水田部門よりポンプを借りて翌日午後にハウス内より排水、翌々日の実習は無事に実施でき、作物に被害も出なかった。A2ハウスは2週間、中に入れなかったものの実習用に栽培していた作物に影響はなかった。今後は高畝づくりにする予定
   2) 生産物の残渣が堆肥施設の処理能力に対して多過ぎるため、なかなか堆肥に完熟できない
   →冬期に入り、腐熟を促すため切り替えし作業の回数を増やしているが追い付かない。
   また、枯れた主茎や木質化したものは、そのままではなかなか分解しない。
   残渣処理の下処理など検討する必要あり

5．その他特筆すべき点
   1) ドローン関連と GPS での測量の業務依頼が増加
   2) 久保田技術専門職員が東京都農林総合研究センターの出向より復帰
   3) 辻調理師専門学校(エコール辻東京)に野菜の栽培指導と生産物を提供
   4) キャンパス整備に伴い、3号圃・8号圃の区画整理を行った
   5) ランの管理を園芸緑地チームに移管

6．平成30年度活動計画
   1) 各種研修会への参加と必要に応じて資格の取得
   2) 奨励研究への応募
   3) 新規実習への対応
   4) キク交配実生の花画像の HP 公開

(3) 園芸・緑地チーム　(石川・工藤・秦野)

平成29年度の活動評価
1.年度当初の問題点
　1)ハス品種について取り違いが起きている品種が数品種見つかった
2.解決できた問題点・その方法
　1)取り違いが起きている品種のうち、「請所本紅」については京都府立植物園から再導入（予定）
3.解決できなかった問題点とその理由
　1)取り違いが起きた品種は品種の同定が困難
4.年度内に生じた問題点とその対応
　1)キャンパス整備に伴う建物の取り壊しにより資材置き場が不足、資材の一部を孵卵室に移動
5.その他特筆すべき点
　1)ハスの分譲依頼に対応（行田市・神代植物公園）
　2)中日新聞、東京新聞からハスについて取材、資料提供依頼に対応
　3)ハス見本園の見学依頼に対応(キュー王立植物園・府中市・行田市・徳島県など)
　4)茨城県農業総合センターから食用ハス品種「備中」を導入
　5)ハス見本園で観蓮会(6/25、7/23)を実施、6/25（雨）は251名、7/23は1246名が来場
　6)植物園協会技術者講習会(7月6日～7日)を実施、石川・工藤がハスの見学・実習と講義を担当
　7)安田講堂前に花ハスを展示(7月3日～14日)　大賀ハス、緑地美人など30鉢
　8)登録品種「月のほほえみ」の品種特性について園芸学会で発表(石川・工藤)
　9)研究支援依頼に対応
　　・樋口講師(園芸学教室)の「高機能性レンコンの探索」に協力
　　・花ハス遺伝資源のレンコン形質に関する多様性解析(東京大学　樋口ら)石川・工藤が共著
　　・ddRAD-seq 解析より得られた SNP に基づくレンコン品種識別法の開発(茨城大学　小林ら)石川が共著（予定）
　　・花ハス根茎におけるポリフェノール含量の多様性(茨城大学　E. Haque1 ら)石川が共著（予定）
　10)東京都神代植物公園で「江戸の園芸植物 蓮」の講演を実施(7/16)
　11)株式会社 hu「テレビ東京　池の水ぜんぶ抜く」の撮影に技術協力

6.平成30年度活動計画
　1)ハス品種の遺伝資源保存・研究
　　植替え、水管理など適切な維持管理を行う
　　品種特性について情報収集を行う
　2)観賞用植物（温室）の栽培管理
　　植替え、灌水など適切な維持管理を行う
　　学内におけるレンタルグリーンサービスを継続して行う
　3)樹木見本園・日本庭園の維持管理
　　選定、草刈りなど適切な維持管理を行う
　4)教育・研究
　　樋口講師(東京大学)の「高機能性レンコンの探索」に協力
　　ハスの開花特性調査について調査結果をまとめ発表する
　　ハス由来の生薬（蓮肉）の品質評価について調査結果をまとめる（千葉大学と共同）

東南植物楽園（沖縄県）で大賀蓮の展示・栽培試験を実施する

5)社会貢献

ハス見本園の一般公開、観蓮会を実施する

東京都薬用植物園、東京都神代植物公園で「江戸の園芸植物 蓮」の講演を行う

（4）森林チーム　（栗田・相川）

2017 年度の活動評価

(1)　年度当初の問題点

① 見学路付近の枯れ枝、掛り枝が見学者に落下するおそれがある。

② 苗畑に据え置いてあったポプラやエゾマツ等が場所をふさいで、他の実験に使用できない。

③ 枝条集積場所がいっぱいになり、新たな枝条を置く場所が少なくなっている。

(2)　解決できた問題点・その方法

① 見学路付近の枯れ枝、掛り枝を高枝のこぎり、スローライン、高所作業車で処理をした。

② 据え置きのポプラ、エゾマツ等を撤去し、苗畑として使用できるように整地した。また、ポプラとエゾマツ・トドマツの後継樹を別の場所に新植した。

③ 2018 年 1 月 9～11, 22 日に枝条のチッパー処理を行ない、枝条集積場所を確保した。

(3)　解決できなかった問題点とその理由

特になし

(4)　年度内に生じた問題点とその対応

① 夏季の高温多湿日の連続→7～8 月にかけ、熱中症指数の高い日には、極力炎天下での作業を制限し、水分を小まめにとる、熱中症指数を掲示するなどの熱中症防止策を講じた。また、この時期の野外作業の日数を減らした。

② 近隣住民から、道路への落葉・落実およびフェンスへの蔓の巻きつき等の苦情が数回寄せられた。
→速やかに処理するとともに、定期的に見回り、掃除を行った。

③ スズメバチの巣を 2 か所に発見した。第二苗畑の巣は研究利用者がいるために直営で撤去した。25 小班の巣は高所であり見学路から離れているため、パイロンとバーで立ち入り規制し、注意看板を設置した。

④ 2017 年 10 月 22 日に通過した台風 21 号の降雨の影響で敷地内北側が大規模に冠水し、市道および住宅建設予定地に流出した。→応急処置として、土嚢で雨水の流出をコントロールした。今後の対策として、北側境界沿いの防草シートを砕石に交換し、流出箇所に水をせき止めるゴムシートを設置する工事の計画を行った。

⑤ 2017 年 4 月、見学路柵、コーンバー、研究試料への被害が確認された。被害は演習林北側万年塀もしくは北側造成地フェンス脇より侵入した児童によるものと思われた。対策として、北側万年塀に柵と注意看板とダミーカメラを、北側造成地フェンス脇に注意看板を設置した。

⑥ 台風 21 号により北側境界沿いのアカマツが約 7ｍの高さで幹折れした。東方向に折れたために民地に被害を与えずに済んだが、他に境界沿いで腐朽等のため倒伏の危険性がある樹木がないか調査した。調査の結果、すぐ倒伏しそうな樹木はなかったが、今後も定期的に調査して危険木が見つかった場合は速やかに対応することとした。

(5)　その他特筆すべき点

① 2018 年 1 月 30 日～2 月 1 日に GIS 講習が実施され、ArcGIS の操作・活用法を習得した。

② 2018 年 1 月 15～17 日の 3 日間で高所作業車を利用し、見学路沿いを主とした、掛り枝、枯損枝、越境枝の処理を行った。

③ 昨年度見学路沿い 8 か所に設置した仮設の現在地がわかる案内板を、2017 年 7 月 26 日に恒久的な看板に設置しなおした。

④ 2017 年 11 月 8～9 日に関東甲信越地区大学演習林等技術職員研修「市民を対象としたイベント企画～伝える技術とリスク管理～」が田無演習林で実施され、技術職員 2 名が講師として指導した。

⑤ 2017 年 4 月 29 日にツリークライミング体験会を田無演習林で初めて実施した。

2017 年度活動計画

① 苗畑を有効利用するための計画を立てる。

② 見学路を主とした枯損枝の処理と枯損木の伐倒

③ 民地にかかる支障木の伐採（田無演習林教育研究計画　施業 8 年目）

④ GIS による苗畑や林地の管理履歴の作成

⑤ 見学者や研究利用者向けの看板の整備

⑥ 越境木・枯損木伐採跡地への植栽計画を検討する。

(5) 機械管理グループ　(工藤・曽我・和泉・神川・栗田)

平成 29 年度の活動評価

1、本年度の主な活動内容

① 定期打ち合わせ（業務調整会議後)。
② 機械類のメンテナンス、故障時対応、発注対応。
③ 機械類更新時の機種選定。

2、年度当初の問題点と対応

① 機械の更新・購入

・トラクター作業機：プランター、ドリル、ダンプ、マニュアスプレッダー、コンポキャスタを更新。
・自脱コンバイン更新。
・レザーコンテナを購入。
・J80 運搬車を更新。
・乗用モアを更新。(3 月下旬納品予定)。
・格納庫群に高圧洗浄機、エアーコンプレッサー×2 を設置。
・精米設備一式、搾油機、製粉機、発芽器、静置式乾燥機×2 を調整施設に設置。

② 機械保管場所の不足、不要機械の処分

・不要作業機（ポテトハーベスタ・プランター・テッダー計 3 点）を廃棄。
・ブームスプレーヤを牧場に譲渡。

3、年度内に生じた問題と対応

①カルチパッカーの著しい経年劣化→更新希望。
②EG65 コントロールパネルの不良→交換。

4、その他

① 格納庫に、機械類の格納、整備室・工作室の機能を移転。
② 調整施設に、精米・製粉・搾油・冷蔵等の設備を移転。
③ チッパー貸出を田無演習林と牧場にそれぞれ 1 か月行った。

5、次年度の活動予定

① 定期打ち合わせ。
② 機械類のメンテナンス、故障・発注対応。
③ 機構整備に合わせた機械更新。

（6）安全衛生作業グループ　（白井・和泉・矢津田・臼井・相川）

平成 29 年度活動評価

（１）　本年度の活動内容

①安全標語ポスターの作成・掲示：ほぼ季節ごと、作業内容の変わる節目
②ハチトラップ製作・設置・回収
③リスクアセスメント実施
④毎月の定期的な清掃を機構教職員・学生等に呼びかけ全員で実施。整理整頓に心掛けた。
⑤安全ガイダンスと運搬車講習会の講師
⑥利用者交流会での発表

（２）　（１）によって達成できた事項

①相当のスズメバチやアシナガバチを捕獲した
②日常の危険要因を把握し、安全作業徹底

（３）　（１）によって達成できなかった事項・反省点

特になし

（４）年度内に生じた問題点とその対応

・運搬車で出庫の際、シャッターに接触しシャッターが一部損傷する事故が起きた
　その対応として当事者に運搬車の利用についての再教育を行った

平成 30 年度計画

・安全標語ポスターの作成・掲示
・ハチトラップ製作・設置：7 月～10 月に 2 回程度
・毎月の全体清掃
・安全ガイダンスと運搬車講習会の講師

(7) 技能向上グループ　（手島・市川・神川・臼井・石川・相川）

（1）平成 29 年度の活動内容

・定期会合：月 1 回程度全体会議前に実施
・学内および学外の研修案内
・総合技術本部技術職員研修企画委員会および農学生命科学研究科技術部研修委員会からの研修情報の伝達

（2）年度内に生じた問題点

特になし

（3）その他特筆すべき点

・日本植物園協会の技術者講習会を機構と演習林で開催した。
・酪農学園大学で行われた平成 29 年度園芸学会 秋季大会で石川技術職員がポスター発表をした。
・新潟大学で行われた全国大学演習林協議会 秋季総会で栗田技術専門員が森林管理技術賞（特別功労賞）を受賞した。
・平成 29 年度 東京大学技術職員研修 刈払機、チェーンソー等の点検研修および安全講習を機構と演習林で開催した。
・駒場キャンパスで行われた第 2 回東京大学技術発表会に技術職員がポスター発表および聴講参加した。

（4）平成 30 年度活動目標

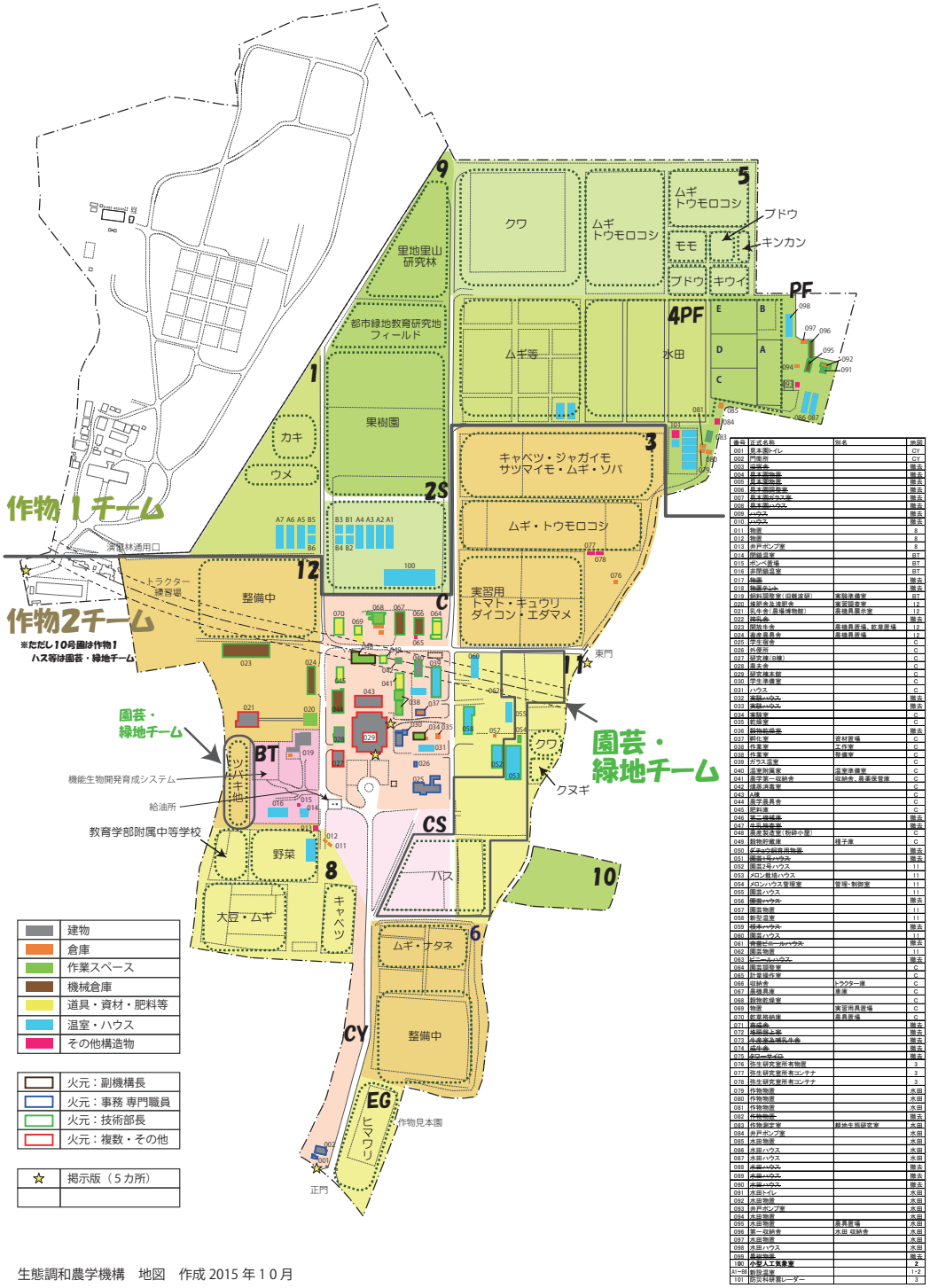
・東京大学教室系技術職員学外技術研修（前期・後期）への応募
・東京大学職員（技術職員）海外研修（短期）への応募
・東京大学技術職員研修（全学的および部局的な集団研修）への応募
・農学生命科学研究科技術職員実務研修への応募
・日本学術振興会　科学研究費補助金　奨励研究への応募

（5）その他

なし

Ⅴ　圃場・施設利用

1　農場・緑地



番号	正式名称	別名	地図
001	見本園トイレ		CY
002	門衛所		CY
003	~~温室~~		撤去
004	~~見本園物置~~		撤去
005	~~見本園物置~~		撤去
006	~~見本園温室~~		撤去
007	~~見本園ガラス室~~		撤去
008	~~見本園ハウス~~		撤去
009	~~ハウス~~		撤去
010	~~ハウス~~		撤去
011	物置		8
012	物置		8
013	井戸ポンプ室		8
014	閉鎖温室		BT
015	ボンベ置場		BT
016	井戸鎖温室		BT
017	~~物置~~		撤去
018	~~物置ボックス~~		撤去
019	閉鎖温室(旧鶏滅菌)	実験準備室	BT
020	植栽舎及び温室	実習用農舎	12
021	札幌舎(農場博物館)	農機具置所室	12
022	~~倉庫~~		撤去
023	開放牛舎	農機具置場、乾草置場	12
024	農産農具舎	農機具置場	12
025	学生厩舎		C
026	外便所		C
027	研究棟(B棟)		C
028	農舎舎		C
029	研究棟本館		C
030	学生準備室		C
031	ハウス		C
032	~~実験ハウス~~		撤去
033	~~実験ハウス~~		撤去
034	実験室		C
035	乾燥室		C
036	~~動物飼育室~~		撤去
037	研究室	資材置場	C
038	作業室	工作室	C
039	ガラス温室	乾燥室	C
040	温室附属室	温室準備室	C
041	農学第一収納舎	収納舎、農薬保管庫	C
042	構造準備室		C
043	人間		C
044	農学農具舎		C
045	肥料庫		C
046	~~第二機械庫~~		撤去
047	~~住居機器室~~		撤去
048	農産製造室(粉砕小屋)		C
049	穀物貯蔵庫	種子庫	C
050	~~ビニールハウス用物置~~		撤去
051	~~圃場1号ハウス~~		撤去
052	圃場2号ハウス		11
053	メロン育苗ハウス		11
054	メロンハウス管理室	管理・制御室	11
055	圃場ハウス		11
056	~~圃場ハウス~~		撤去
057	圃場物置		11
058	新型温室		11
059	~~特殊ハウス~~		撤去
060	圃場ハウス		11
061	~~特殊ビニールハウス~~		撤去
062	圃場物置		11
063	~~ビニールハウス~~		撤去
064	圃場温室室		C
065	計量作業室		C
066	収納舎	トラクター庫	C
067	農機具庫	車庫	C
068	穀物乾燥室		C
069	物置	実習用具置場	C
070	乾草換納庫	農具置場	C
071	~~倉庫~~		撤去
072	~~機械修上室~~		撤去
073	~~作業舎及び搾乳牛舎~~		撤去
074	~~倉庫舎~~		撤去
075	~~ダクーサイロ~~		撤去
076	作生研究室所有物置		3
077	作生研究室所有コンテナ		3
078	作生研究室所有コンテナ		3
079	作物物置		水田
080	作物物置		水田
081	作物物置		水田
082	~~作物物置~~		撤去
083	作物測定室	耕地生態研究室	水田
084	井戸ポンプ室		水田
085	水田物置		水田
086	水田ハウス		水田
087	水田ハウス		水田
088	~~水田ハウス~~		撤去
089	~~水田ハウス~~		撤去
090	~~水田ハウス~~		撤去
091	水田トイレ		水田
092	水田物置		水田
093	井戸ポンプ室		水田
094	水田物置		水田
095	水田物置	農具置場	水田
096	第一収納舎	水田 収納舎	水田
097	水田物置		水田
098	水田ハウス		水田
099	~~農産物置~~		撤去
100	**小型人工気象室**		**2**
A1～B6	開放温室		1-2
101	防災科研書レーダー		3

生態調和農学機構　地図　作成 2015 年１０月

（1）圃場利用

1)　作物見本園

圃場名	目的	作物名等（品種名等）	栽培面積（ａ）	栽培期間	備考
見本園	社会貢献	ヒマワリ	10	6～9	西東京市共同事業（見本園休止）

2)　区分圃場

圃場名	目的	作物名等（品種名等）	栽培面積（ａ）	栽培期間	備考
1	研究・教育	カキ（前川次郎・さえふじ・平核無・貴秋）	10	2006/12～	実習（応用生物学専修、農業・資源経済学専修） ホームカミングデー、 中学生職場体験 附属中学校実習
	教育	ウメ（鴬宿、紅さし、藤五郎、高田豊後、八房の梅、甲州最小、竜峡小梅）	8	2014/12～	
		すだち、かぼす、ゆず、柚香	3	2015/4～	
		クリ（紫峰、神鍋、利平、ぽろたん）	4	2015/3～	
	教育	キク（全 26 品種）	2	2015/8～	実習（応用生物学専修）
	研究	野草	1	2016/4～ 通年	（山田）9 号圃より移設
2Ｎ	研究	チガヤ	20	4～2018/3	（山田）
		在来植物	1.5	4～2018/3	（山田）
2Ｓ	教育	モモ（秀峰・黄ららのきわみ・黄貴妃・黄金桃・白鳳・あかつき・友黄・日川白鳳・ちよまる・ふくおとめ・はつおとめ）	27	2015/3～	実習（応用生物学専修、農業・資源経済学専修、国際実習） ホームカミングデー 附属中学実習
		ブドウ（巨峰・ピオーネ・シャインマスカット・高尾・キャンベルスアーリー・甲州・ハニーシードレス・リザマート・ゴルビー・彩雲・ダークリッジ）	9	2015/3～ 2016/5～	実習（応用生物学専修、農業・資源経済学専修、国際実習） ホームカミングデー 附属中学実習

		カキ（前川早生次郎・平核無・大核無・早秋・太秋・富士・禅寺丸・朱雀錦）	14	2015/3～	ホームカミングデー 附属中学実習
		リンゴ（ふじ、王林、ふじぽん、王林ぽん）	3	2015/3～	
		クリ（紫峰、神鍋、利平、ぽろたん）	13	2015/3～	ホームカミングデー
		びわ（田中）	7	2016/12～	
		キウイ（ヘイワード・紅妃）	7.7	2015/3～	
		キウイ（香緑・ジャンボイエロー・センセーションアップル・孫悟空・早雄）		2017/3～	
３Ｎ	教育	ソバ（信濃１号）		8～11	実習（応用生物学専修、農業・資源経済学専修、生物・環境工学専修）
		コムギ（さとのそら）	25	2016/11～6	
		オオムギ（イチバンボシ・ユメサキボシ、カシマゴール・ハヤドリ 2）	25	2016/11～6	
	研究	麦類	10	2016/11/10～6	農学国際専攻（岡田）
		麦類	2	2016/12/28 ～6/23	放射線植物生理学研究室（田野井）
		トウモロコシ（KD777New）	78	7/11～11/13	（加藤）
		コムギ（さとのそら）	78	11/～	（加藤）
３ＮＥ	維持管理		5		
３ＮＥ	研究	防災研究所雲レーダー	0.5	通年	独立行政法人防災科学技術研究所
３Ｍ	研究	ソラマメ野生種	12	2016/10～5/31	（佐々木）
		コムギ（さとのそら）	26	2016/11/30 ～6/16	（加藤）
		トウモロコシ（KD777New）	42	7/11～11/07	（加藤）
		コムギ（さとのそら）	32	11～	（加藤）
	教育	ダイコン（夏のきざし）・エダマメ（快豆黒頭巾）・その他野菜	4	4/19～7/5	実習（応用生物学専修、生物・環境工学専修）

		スイカ（紅こだま）・メロン(TFパンナ・プリンス)・とうもろこし(ゴールドラッシュ・ゴールドラッシュNEO)・カボチャ(バターナッツ)・ズッキーニ(オーラム・ダイナム)		4/3～7/31	
		ブロッコリー（ピクセル）・大根（耐病総太り）・レタス（極早生シスコ）・その他野菜	4	9/27～12/13	実習(応用生物学専修、農業・資源経済学専修)
		キャベツ(しずはま２号・おてがるキャベツ・サラダキャベツ)・レタス(晩中レッドファイヤー・極早生シスコ)・ブロッコリー(スバル)・ミニ白菜(タイニッシュ)		8/25～1/4	
	維持管理	エンバク（ニューオーツ）	6	5/19～7/24	
		エンバク（ニューオーツ）	6	10/11～	
３Ｓ	教育	ジャガイモ(メークイン・男爵・キタアカリ)	6	3～7	実習(応用生物学専修、生物・環境工学専修)
		サツマイモ（ベニハルカ・ベニアズマ）	5	5～10	実習(応用生物学専修、農業・資源経済学専修)
		野菜類	1	5/1～12/4	辻調理師学校
		耕うん実習	10	4/15 6/6 6/7 9/27 11/8	実習(応用生物学専修、農業・資源経済学専修、生命化学・工学専修・農学国際)
		麦類（ユメシホウ・セトデュール・イチバンボシ・ユメサキボシ・ハヤドリ２・カシマゴール）	10	11/30～	実習(応用生物学専修、農業・資源経済学専修、生物・環境工学専修)
	研究	ダイズ（品種多数）	4	5～12	（郭）

		コムギ（さとのそら）	4	12～	（深野）
３ＳＥ	研究 維持管理	野菜類	1	4～2018/3	新領域創成科学研究科（橋田）
		藻類	1	4～2018/3	生物科学専攻（寺島）
４ＥＳ	研究	イネ（品種多数）	1.5	7～8	（加藤）
	維持管理		4		
			4.5		
４ＥＭⅠ	研究	トウモロコシ	5	7～12	（佐々木）
		イネ（品種多数）	5	6～11	
４ＥＭⅡ	研究	コムギ（さとのそら）	12.5	2016/11～6/20	（佐々木）
４天水田	維持管理		10		
４WM	維持管理		30		
４WS	研究	トウモロコシ	8	6～11	生産･環境生物学専攻作物学研究室（山岸）
４WN	維持管理		30		
５MS	維持管理		35		休耕
５MN	研究	コムギ	15	～6/15	（山岸）
		トウモロコシ		7/10~10/18	
		コムギ		11/17～	
５EN	維持管理		30		休耕
５ＥＳ	教育	果樹（ブドウ・モモ）	25	2005/3～	実習（応用生物学専修、生物・環境工学専修、国際開発農学専修）、附属中学校
	教育	キウイフルーツ	6	2010/12～	実習（応用生物学専修）、中学生職場体験
6	維持管理	ヒマワリ（ハイブリットサンフラワ・サンゴールド）	25	7/3～10/6	
		ライ麦（ハルミドリ）・菜種（菜の花）	20	10/27	
8	教育	課題別学習実習圃	10	4～2018/3	教育学部附属中等教育学校
	教育	トマト・ダイコン	1	5～7	実習（応用生物学専

					修)
	研究	キャベツ・トマト	4	4～2018/3	農学国際専攻国際植物資源科学研究室（宮沢）
	研究	ダイズ	20	6～10	生産･環境生物学専攻作物学研究室(青木)
	研究	コムギ（さとのそら）	20	11～	（深野）
	研究	キクイモ・ヒマワリ	4	4/28～12/10	（深野）
	研究	ヒマワリ	10	5/2～8/22	生圏システム学専攻（曽我）
	社会貢献	ダイズ	3	4～2018/3	社会連携協議会
	研究	江戸野菜等	7	4～2018/3	（手島）・(安永)
		緑化樹木（多品種）	12	通年	実習(緑地環境学専修)
9		緑化樹木（サカキ）	1	通年	実習(緑地環境学専修)
	研究	樹木類	30		キャンパス整備中
１０	維持管理	草地	30		売却予定
１１	維持管理				キャンパス整備中
１２	維持管理	総合研究棟用地 都道用地			
水田Ａ	研究	イネ（品種多数）	10	5～12	生産･環境生物学専攻栽培学研究室(根本)
水田Ｂ	研究	イネ（コシヒカリ）	3.6	5～11	新領域･環境システム（吉田）
水田Ｃ	教育	イネ（品種多数）	7	6～12 6～12	実習(応用生物学専修)、採種
	研究		2.5		（佐々木）
	研究		0.5		（加藤）
水田Ｄ	研究	イネ（品種多数）	10	5～12	（佐々木）
水田Ｅ	研究	イネ（品種多数）[水稲]	5	5～12	アジア生物資源環境研究センター／地域資源評価研究室（鴨下）
		イネ（品種多数）[陸稲]	5		
苗代	研究 教育	イネ（こがねもち）	2	5～9	実習(応用生物学専修)、採種

水田Ⅰ	研究 教育	イネ（コシヒカリ・関東HD2号）	30	5～10	実習(応用生物学専修、農業・資源経済学専修、生物・環境工学専修、国際開発農学専修、緑地環境学専修、フィールド科学専修)、採種
水田Ⅱ	研究 教育	イネ（品種多数）	1	5～11	放射性同位元素施設放射線植物生理学研究室（田野井）
		イネ（品種多数）	15		生産･環境生物学専攻作物学研究室(青木)
		イネ（関東HD2号）	13		実習(応用生物学専修)
水田Ⅲ	研究	イネ（品種多数）	5.4	5～11	（佐々木）
			9		生産･環境生物学専攻育種学研究室(伊藤)
			7.8		生産･環境生物学専攻植物栄養･肥料学研究室（藤原）
			4.8		理学系研究科生物科学専攻（平野）
水田畑地	維持管理		6.6		
化学圃	維持管理		4.8		休耕
花ハス見本園（旧化学圃）	維持管理 研究・教育	ハス（多品種）	9	通年	実習(応用生物学専修、生物・環境工学専修、緑地環境学専修) 園芸学研究室（樋口）
花ハス見本園（旧精密圃）	維持管理 ・教育	ハス（多品種）	19	通年	実習(応用生物学専修、生物・環境工学専修、緑地環境学専修) 廃止
苗圃	維持管理				キャンパス整備中

トラクタ練習場	維持管理				キャンパス整備中

3)　施設園芸

圃場名	目的	作物名・(品種名)	栽培面積（a）	栽培期間	備考
3号ハウス	維持管理		3.0		2018/2　取り壊し

圃場名	目的	作物名・(品種名)	栽培面積（a）	栽培期間	備考
A-1号ハウス	教育・研究 稲作	イネ	1.9	4～2018/3	育苗・穀物乾燥
A-2号ハウス	教育・研究 蔬菜	トマト(麗夏)、ミニトマト(ペペ、イエローアイコ)、コマツナ、ハツカダイコン、ミズナ、ホウレンソウ、チンゲンサイ、カブ（あやめ雪）	1.9	4～2018/3	土耕利用・実習(応用生物学専修、農業・資源経済学専修、生物・環境工学専修)、農学国際専攻国際情報農学研究室（溝口)、教育学部附属中等教育学校
A-3号ハウス	教育 果樹	カンキツ（宮川早生、あすみ、ベルガモット、みはや、ロコブロンコ)・キウイ(センセーションアップル、ヘイワード、紅妃、ジャンボイエロージョイ、香緑)	1.9	通年	
A-4号ハウス	研究	ソルガム（品種多数）	1.9	5～2018/3	生産・環境生物学専攻植物分子遺伝学研究室（堤）
		ネズミムギ・タイトゴメ・メキシコマンネングサ		4～10	緑地創成学研究室（大黒）
		ビートほか		10～2018/3	（郭）
		ダイズ		5～2018/3	生産・環境生物学専攻（岩田）
A-5号ハウス	教育・研究 園芸緑地	観葉植物（多品種)・ガジュマル	1.9	通年	実習（緑地環境学専修)、生産・環境生物

					学専攻　昆虫遺伝研究室（嶋田）
A-6 号ハウス	教育・研究 園芸緑地	観葉植物（多品種）・ガジュマル・クワ	1.9	通年	実習（緑地環境学専修）、生産・環境生物学専攻　昆虫遺伝研究室（嶋田）
A-7 号ハウス	教育 キク	キク（35 品種+育成中品種多数）	1.9	通年	実習（応用生物学専修，中学生職場体験）
B-1 号ハウス	研究	イネ	0.7	4～11	（佐々木）
B-2 号ハウス	研究	緑化植物（多品種）	0.7	4～10	緑地創成学研究室（大黒）
B-3 号ハウス	研究	熱帯果樹	0.7	4～2018/3	（安永）
B-4 号ハウス	研究	山野草	0.7	4～2018/3	（山田）
				10～2018/2	（小山）
B-5 号ハウス	教育・研究	野菜類（苗）	0.7	4～2018/3	育苗・（安永）、農学国際専攻国際植物資源科学研究室（宮沢）
B-6 号ハウス	貸与	観葉植物	0.7	通年	理学部植物園

(2) 圃場施設利用実績一覧

	所属	利用目的	利用圃場等	利用開始日	利用終了日
1	附属生態調和農学機構	鳴き声の定点観測によるカエルの活動判定	水田および周辺	2017/4/1	2018/3/31
2	生物・環境工学専攻	植物病理医科学実習	8 号圃	2017/5/10	2017/7/12
3	農業・資源経済学専攻	農作業実習	水田　3 号圃　温室　果樹園	2017/4/1	2018/3/31
4	生物・環境工学専攻	生物・環境工学フィールドワーク	水田　果樹園　3 号圃　温室　花ハス見本園	2014/4/1	2017/9/30
5	農学国際専攻	農場実習	水田　3 号圃　8 号圃	2017/4/1	2018/3/31
6	生圏システム学専攻	保全生態学実習	水田	2017/4/1	2017/9/30

7	応用生命化学専攻	農業実習（農作業基礎実習、植物栄養整理実習、環境土壌学実習）	3 号圃	2017/6/5	2017/6/5
8	農学国際専攻	IPADS 実習	水田　3 号圃	2017/4/1	2018/3/31
9	生産・環境生物学専攻	フィールド農学基礎実習　フィールド農学応用実習	水田　果樹園　温室　花ハス見本園	2017/3/1	2018/3/31
10	生圏システム学専攻	緑地環境実地実習	樹木見本園　温室　花ハス見本園　水田	2017/4/1	2018/3/31
11	生圏システム学専攻	施肥管理の違いが各種生物相に及ぼす影響の評価	3 号圃	2017/4/1	2018/3/31
12	附属生態調和農学機構	農場博物館の運営を通じた農業技術史・農業教育史および社会連携の研究	農場博物館周辺　農場博物館　農学農具舎	2017/4/1	2018/3/31
13	生産・環境生物学専攻	イネの生産性および収量形成に関する生産生理学的解析	水田	2017/4/24	2017/10/31
14	附属生態調和農学機構	調理用トマト、カボチャを上空から撮影することによる着果確認、病気の判別試験	3 号圃　B 5 温室	2017/3/1	2017/7/30
15	大学院理学系研究科 生物科学専攻	イネの発生と形態形成に関する発生遺伝学的研究	水田	2017/5/1	2017/10/31
16	大学院理学系研究科 附属植物園	植物園温室改修期間中の鉢物管理	B6 ハウス	2017/4/1	2018/3/31
17	附属生態調和農学機構	ハス、観葉植物などの栽培記録用写真の撮影	新型温室	2017/3/1	2017/8/31
18	大学院新領域創成学研究科　環境システム学専攻	営農型太陽光発電を踏まえた水稲栽培における遮光影響の実証研究	水田	2017/4/1	2018/3/31
19	附属生態調和農学機構	UAV による画像取得	全域	2017/4/1	2017/12/31
20	生圏システム学専攻	屋上緑化における CAM 植物の混植による他種の成長の促進効果機構の解明	B 4 温室	2017/4/1	2017/10/31
21	附属生態調和農学機構	植物の血縁認識を応用した作付け方法の検証	8 号圃	2017/4/1	2018/3/31
22	附属生態調和農学機構	植物の他株識別能力の解明	システム内ガラス温室	2017/4/1	2018/3/31
23	教育学部 附属中等教育学校	本校総合学習の農業実習	8 号圃	2017/4/1	2018/3/31
24	生産・環境生物学専攻	ダイズの糖代謝および生産性に関する生理生化学的解析	8 号圃	2017/5/29	2018/11/30
25	生圏システム学専攻	大学生の植物に対する認識度の評価	8 号圃	2017/4/1	2018/3/31

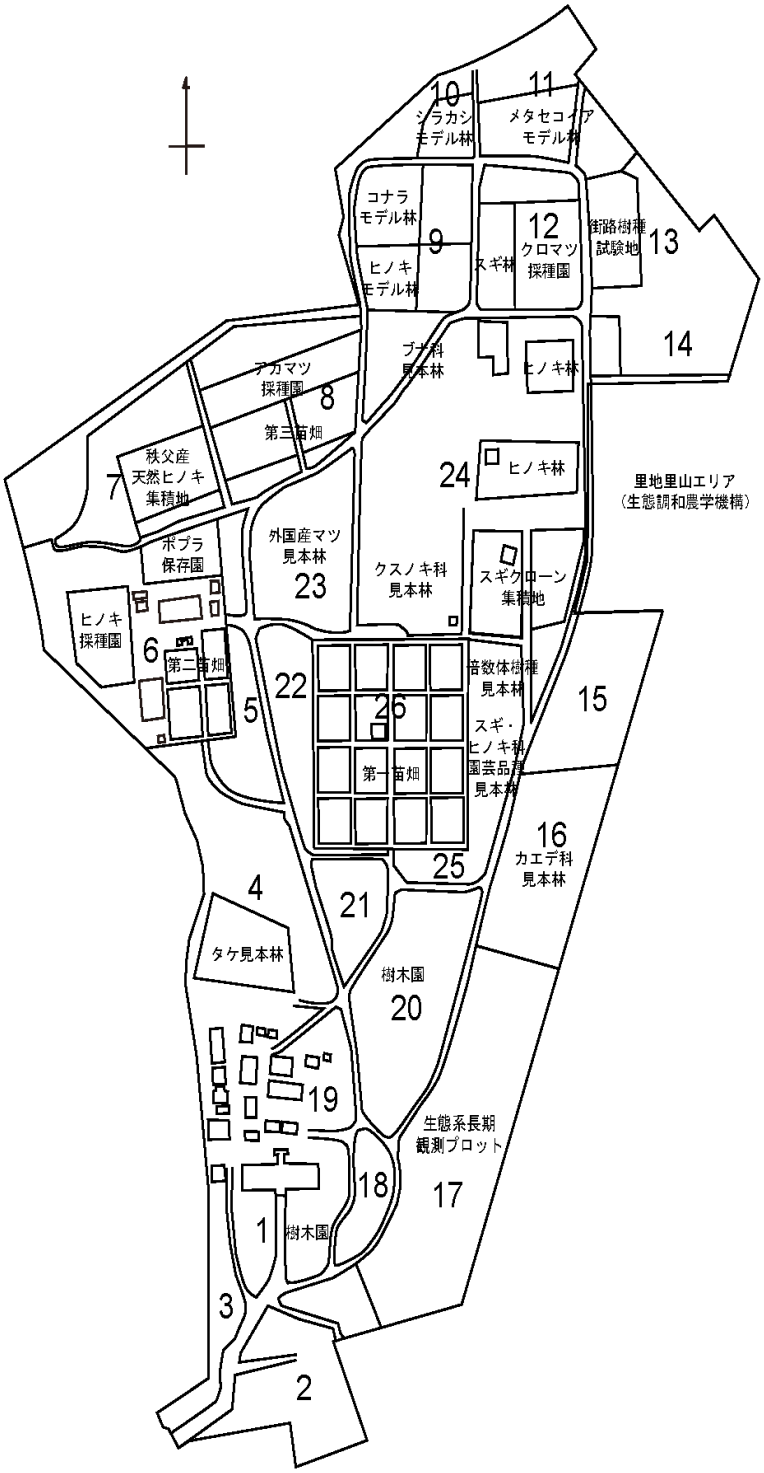
26	附属生態調和農学機構	ひまわり畑プロジェクト	旧作物見本園	2017/5/1	2017/11/30
27	附属生態調和農学機構	人工光型植物工場による農作物生産試験	人工気象室建設予定地	2017/4/1	2018/3/31
28	生産・環境生物学専攻	ゲノムワイドアソシエーション解析のためのソルガムの穂形および耐塩性の評価	A4 温室	2017/4/1	2018/3/31
29	附属生態調和農学機構	ドローンを用いた育種栽培圃場用の高精度画像取得技術開発	全域	2017/4/1	2018/3/31
30	附属生態調和農学機構	ダイズ遺伝資源のゲノム-表現型関連解析のための栽培試験とリモートセンシングによる表現型計測システムの開発	3 号圃	2017/5/10	2017/11/30
31	放射性同位元素施設	イネの種子収穫	水田	2017/4/1	2017/10/31
32	附属生態調和農学機構	河川堤防法面における半自然草地の創出に向けた環境緑化技術の開発	2 号圃	2017/11/1	2018/3/31
33	附属生態調和農学機構	種多様性に配慮したシバ・チガヤ型モデル草地のモニタリング	2 号圃	2017/4/1	2018/3/31
34	附属生態調和農学機構	身近な在来野草による日本らしい自然再生	B4 温室　2 号圃	2017/4/1	2018/3/31
35	応用生命化学専攻	玄米中ミネラル成分の評価および影響する遺伝子の単離	水田	2017/4/10	2017/10/31
36	生産・環境生物学専攻	減化学肥料栽培における作物生産と堆厩肥の有効活用のための研究	3 号圃	2017/4/1	2018/3/31
37	生産・環境生物学専攻	休閑管理による土壌生産力の維持・向上に関する研究	5 号圃	2017/4/1	2018/6/30
38	生産・環境生物学専攻	ドローンを用いた育種栽培圃場用の高精度画像取得技術開発	全域	2017/4/1	2018/3/31
39	大学院理学系研究　科生物科学専攻	農耕地や植栽地の栄養素流亡を土壌藻で抑制する方法の開発	3 号圃	2017/4/1	2018/3/31
40	生産・環境生物学専攻	西東京フィールドにおけるクワコ（カイコガ科）の生態と天敵の調査	5 号圃桑園	2017/4/1	2018/3/31
41	生産・環境生物学専攻	カイコ近縁種における寄主植物選択機構の解明を目的としたクワ科植物の栽培	A6 温室	2017/4/26	2017/12/8
42	生産・環境生物学専攻	家蚕の遺伝実験のためのクワの栽培、および桑園管理手法の研究	5 号圃桑園	2017/4/1	2018/3/31
43	生圏システム学専攻	バイオチャーが屋上緑化植物の生育と雨水流出量に与える影響の解明	A4 温室	2017/3/8	2017/8/31
44	生物環境工学専攻	畑地根圏内の水分・窒素移動特性の解明	3 号圃	2017/4/1	2018/3/31
45	大気海洋研究所	初年次ゼミ理科（教養学部 1 年生）の学生実験等	5 号圃	2017/4/1	2018/3/31
46	生圏システム学専攻	草地群集における、植物種組成の変化に対する植物利用昆虫の行動変化の観察	14 林班	2017/4/1	2017/12/1
47	生産・環境生物学専攻	ダイズ群落構造の理解に向けた個体間相互作用の解明	A4 温室	2017/5/8	2018/3/31
48	国際イネ研究所	作物の持続的生産と窒素利用に関する研究	3 号圃	2017/4/1	2018/3/31
49	国際イネ研究所	イネ科作物の土壌肥沃度への生長応答に関する研究	3 号圃	2017/4/1	2018/3/31

50	国際イネ研究所	イネ品種・系統の種子更新	水田	2017/5/20	2017/10/31
51	附属生態調和農学機構	医農食連携における高齢者の QOL 改善に資する研究	B5 温室　8 号圃	2017/4/1	2018/3/31
52	附属生態調和農学機構	ワンタッチ式組立テントおよび折りたたみ椅子の保管	孵卵室	2017/4/1	2018/3/31
53	附属生態調和農学機構	植物環境工学の編集事務局としてのメールアドレスを継続利用	メールアドレス	2017/4/1	2018/3/31
54	附属生態調和農学機構	第 4 回　農と食の体験塾　在来大豆編	8 号圃　学生宿舎　収納舎	2017/4/1	2018/3/31
55	附属生態調和農学機構	市民と協働した東京在来大豆の復活および振興に向けた品種特性調査	8 号圃　新型温室	2017/4/1	2018/3/31
56	附属生態調和農学機構	市民と農業をつなぐ『大学農場発「江戸東京野菜」たねとりネットワーク』の形成	8 号圃　B５温室	2017/4/1	2018/3/31
57	附属生態調和農学機構	市民と農業をつなぐ『大学農場発「江戸東京野菜」たねとりネットワーク』の形成	水田周辺物置・倉庫	2017/4/1	2018/3/31
58	附属生態調和農学機構	イネの環境ストレスや収量性に関する遺伝解析、材料育成および収量調査	水田　4 号圃	2017/4/1	2017/11/30
59	附属生態調和農学機構	イネの早朝開花性に関する表現型解析と遺伝子発現解析	B1 温室 A1 温室 システム内ガラス温室 人工気象機	2017/4/1	2017/11/30
60	附属生態調和農学機構	ソラマメ野生種の栽培化及びメンデル遺伝子の特定	3 号圃	2017/4/1	2017/6/1
61	農学国際専攻	開発中の低コスト土壌水分モニタリングシステムの実証試験	A2 温室	2017/4/1	2018/3/31
62	附属生態調和農学機構	GPGPU (General Purpose computing on GPU) 高速計算により表現型計測システムの開発	本館実験室	2017/4/1	2018/3/31
63	東大農場・演習林の存続を願う会	農場の生きもの（動植物）の観察・調査・記録と報告と生物多様性の保全	全域	2017/4/11	2018/3/23
64	生産・環境生物学専攻	イネの変異体の栽培と調査	水田	2017/5/10	2017/10/31
65	生産・環境生物学専攻	イネの各種農業形質を対象とした QTL 研究	水田	2017/4/10	2017/10/31
66	附属生態調和農学機構	熱帯果樹の栽培に関する研究	B３温室	2017/4/1	2018/3/31
67	アジア生物資源環境研究センター	イネの畑での乾燥ストレスへの応答に関する研究	3 号圃	2017/4/1	2019/3/31
68	アジア生物資源環境研究センター	イネの窒素利用効率に関する研究	A１温室 水田	2017/4/1	2018/3/31
69	アジア生物資源環境研究センター	イネの節水栽培に関する研究	水田	2017/4/1	2018/3/31
70	国立研究開発法人防災科学技術研究所	雲レーダーによる雲観測のため	3 号圃	2017/4/1	2019/3/31

71	生圏システム学専攻	屋上緑化におけるＣＡＭ植物の混植による他種の成長の促進効果機構の解明	B4 温室	2017/6/1	2017/9/30
72	附属生態調和農学機構	5 号圃の整理	5 号圃	2017/4/19	2017/4/26
73	生産・環境生物学専攻	作物の 3 次元形態測定のための撮影	A4 温室	2017/5/8	2018/3/31
74	生産・環境生物学専攻	ダイズの糖代謝および生産性に関する生理生化学的解析	8 号圃	2017/5/29	2017/11/30
75	生産・環境生物学専攻	登熟期間中の窒素施肥がトウモロコシの収量と窒素利用効率に与える影響	4 号圃	2017/5/22	2017/10/30
76	生産・環境生物学専攻	全学自由研究ゼミナール「昆虫と節足動物の生物学」の受講生による昆虫の生態調査の体験実習	全域	2017/8/8	2017/8/22
77	附属演習林	演習林基盤データ整備委員会生物部門鳥類分野による鳥類調査	全域	2017/5/29	2017/6/9
78	附属生態調和農学機構	農業用センサの開発と実証実験	本館実験室	2017/5/24	2018/3/31
79	新領域創成科学研究科　環境システム学専攻	震災時に人命を守る自生食用植物の都市型圃場「防災植物園」の創造	3 号圃	2017/6/1	2020/3/31
80	生圏システム学専攻	植物の多様性に対する人の選好性の解明	正門　桜並木	2017/6/25	2017/6/25
81	農学国際専攻	有機農法水田への雑草投入による炭素・窒素供給量の推定	本館実験室	2017/6/12	2017/7/12
82	附属生態調和農学機構	里山エリアにおける草本植物種多様性の向上に向けた「コアパッチ」の創成	田無演習林の機構管理部分	2017/7/10	2020/3/31
83	附属生態調和農学機構	LED による野菜苗の育苗に関する研究	B5 温室	2017/8/1	2018/3/31
84	生態調和農学機構	イネの直播栽培における出芽性改善の研究	4 号圃	2017/7/18	2017/8/31
85	農学国際専攻	野菜とキノコの同時栽培検討	8 号圃	2017/7/15	2018/3/31
86	日本大学 文理学部生命科学科	植物ウイルス相の解明	2 号圃　果樹園	2017/10/30	2017/10/30
87	附属生態調和農学機構	アシナガグモ類幼体の 種識別法の開発を目的とした分析用個体のサンプリング	水田		
88	生態調和農学機構	機構に導入された新しい播種機（ドリル播）のフィールドでの性能確認	水田	2017/8/21	2017/10/1
89	附属生態調和農学機構	自他識別を利用した作付方法の検証	8 号圃	2017/10/1	2018/3/31
90	附属生態調和農学機構	混植・間作に適したダイズ品種の検討	8 号圃　3 号圃	2017/10/1	2018/3/31
91	附属生態調和農学機構	LED による野菜苗の育苗に関する研究	人工気象室建設予定地	2017/10/1	2018/3/31
92	放射性同位元素施設	イオンビームで変異させたオオムギの M2 種子取得	8 号圃		2018/2/1

93	附属生態調和農学機構	ソラマメ野生種の栽培化	5 号圃	2017/10/1	2018/5/31
94	附属生態調和農学機構	イネの早朝開花性に関する系統育成と世代促進	B1 温室		
95	附属生態調和農学機構	高精度環境観測と作物三次元形態測定	A4 温室	2017/10/20	2020/10/20
96	附属生態調和農学機構	農業体験が福祉施設利用者に与える影響を多面的に測定する。	8 号圃	2017/11/1	2021/3/31
97	生態調和農学機構	登山靴による種子散布の定量評価	B4 温室	2017/10/1	2018/2/28
98	附属生態調和農学機構	農業用センサの開発と実証実験	本館実験室	2017/5/24	2018/3/31
99	大学院農学生命科学研究科　技術部	平成 29 年度東京大学教室系技術職員研修刈払い機、チェーンソー等の点検研修・安全講習	草地　格納庫内工作室本館講義室	2017/11/20	2017/11/22
100	附属生態調和農学機構	高精度環境観測と作物三次元形態測定	A4 温室	2017/11/1	2021/3/30
101	附属生態調和農学機構	イネの環境ストレスや収量性に関する遺伝解析、材料育成および収量調査	調製施設調製施設内冷蔵庫	2017/12/1	2018/3/31
102	放射性同位元素施設	イオンビームで変異させたオオムギの育苗	網室	2017/12/1	2018/1/30
103	生産・環境生物学専攻	5 号圃で行っている継続試験（休閑管理）および今年度 4 号圃で行った試験の再試	旧肥料庫	2018/1/1	2018/11/30
104	アジア生物資源環境研究センター	栽培試験のための必要な資材の保管・実験サンプルの保管	旧肥料庫	2018/1/18	2018/3/31
105	生態調和農学機構	生態調和農学機構内で展開している長期フィールド試験研究（３Ｍ号圃・３Ｎ号圃）に関連する研究資材の保管	旧肥料庫	2017/4/1	2018/3/31
106	農学国際専攻	国際開発専修農業実習・栽培方法が土壌硬度に与える栄養・ミニトマトとキノコの混作	旧肥料庫	2018/1/26	2030/3/31
107	生物環境工学専攻	畑地根圏内の水分・窒素移動特性の解明	旧肥料庫	2018/1/1	2019/3/31
108	附属生態調和農学機構	半自然型モデル草地における土壌・植物体サンプルの長期保存	旧肥料庫	2018/1/4	2018/3/31
109	附属生態調和農学機構	イネの早朝開花系統の開花調査と収量評価	旧肥料庫	2018/1/10	2018/3/31
110	附属生態調和農学機構	フィールドフェノミクス研究（研究利用申請書提出済み）に関するフィールド計測機器・屋外用資材の一時保管	旧肥料庫	2017/12/27	2020/3/30
111	附属生態調和農学機構	機構で保存されているコムギ品種種子の更新と増殖	3 号圃	2018/1/24	2018/6/30
112	附属演習林田無演習林	旧宿舎の柱材の保管	本館実験室	2018/1/15	2018/3/31
113	附属生態調和農学機構	農業とアートを複合した活動が社会的支援を必要とする人たちに与える効果と影響	旧肥料庫	2018/1/31	2018/3/31
114	附属生態調和農学機構	機構利用研究室資材（研究・実習用）の保管	収納舎	2018/2/19	2018/3/31

2　田無演習林


10
シラカシ
モデル林
11
メタセコイア
モデル林
コナラ
モデル林
9
ヒノキ
モデル林
12
クロマツ
採種園
街路樹種
試験地
13
14
ブナ科
見本林
ヒノキ林
アカマツ
採種園
8
第三苗畑
秩父産
天然ヒノキ
集積地
7
24
ヒノキ林
里地里山エリア
（生態調和農学機構）
外国産マツ
見本林
23
クスノキ科
見本林
スギクローン
集積地
ポプラ
保存園
ヒノキ
採種園
6
第二苗畑
5
22
26
倍数体樹種
見本林
15
スギ・
ヒノキ科
園芸品種
見本林
第一苗畑
16
カエデ科
見本林
25
4
21
タケ見本林
樹木園
20
19
生態系長期
観測プロット
18
17
1
樹木園
3
2

（1）圃場施設利用実績一覧（田無演習林）

	所属	利用課題	利用開始日	利用終了日
1	附属演習林	養菌性キクイムシが媒介する樹木萎凋病の発生リスクに影響する環境要因と系統的制約性	2017/04/01	2018/03/31
2	応用生命科学専攻	天蚕・柞蚕の飼料樹としてのクヌギの育成	2017/04/01	2021/03/31
3	附属演習林	*Raffaelea* 属菌の病原性発現機構の解明	2017/04/01	2017/10/31
4	附属演習林	放射線照射したモミの形態異常に関する研究	2017/04/01	2018/03/31
5	学外	定例動物、植物観察会、動物、植物調査会、記録と報告	2017/04/01	2018/03/31
6	学外	モチノキタネオナガコバチ-寄生植物間相互作用の解明	2017/04/01	2018/03/31
7	農業国際専攻	Study on the properties of cellulose nano fiber from different plant species	2017/04/01	2018/03/31
8	学外	環境モニタリングロボットの視覚機能に関する研究	2017/04/01	2018/03/31
9	附属演習林	樹木防御反応の誘導・調節に対する細胞間シグナル物質の機能解明	2017/04/01	2018/03/31
10	附属演習林	樹幹注入剤が材変色に与える影響	2017/04/01	2018/03/31
11	附属演習林	土壌中の障害物がタケ実生の成長に与える影響	2017/04/01	2018/03/31
12	附属演習林	産地別のダケカンバ種子の 100 粒重、発芽率の調査	2017/04/01	2018/03/31
13	森林科学専攻	マツ枯れの研究	2017/04/01	2018/03/31
14	附属演習林	フウ樹の果実から発生するクロサイワイタケ属菌の生態解明	2017/04/01	2018/03/31
15	学外	樹木の衝撃弾性波伝播に関する調査	2017/04/03	2018/03/30
16	附属演習林	森林生態圏管理学の講義で使用する枝の採取	2017/04/04	2017/04/04
17	附属生態調和農学機構	緑地環境実地実習	2017/04/05	2018/01/10
18	森林科学専攻	五月祭の植木市販売苗木の下見と掘り取り、搬出	2017/04/11	2017/05/18
19	森林科学専攻	造林学実験	2017/04/17	2017/07/24
20	森林科学専攻	造林学実験に使用するスギ枝の分譲	2017/04/17	2017/06/04
21	学外	環境モニタリングロボットの長期運用に関する研究	2017/04/17	2018/03/31
22	学外	スギ・クロマツ苗木における根系切断に伴う水輸送効率への影響	2017/05/01	2017/12/31
23	附属生態調和農学機構	田無演習林樹木位置図作成のための飛行試験	2017/05/01	2017/05/12

24	附属演習林	ピットホールトラップを使った地表徘徊性甲虫相の調査	2017/05/01	2018/03/31
25	附属演習林	全学体験ゼミナール「都市の緑のインタープリター養成―子どもに伝える自然体験―」	2017/05/06	2017/06/04
26	森林科学専攻	森林動物学実験	2017/05/12	2017/09/20
27	森林科学専攻	スギと共生するアーバスキュラー菌根菌に関する研究	2017/05/24	2018/03/31
28	森林科学専攻	コンテナ苗の伸長成長抑制技術開発	2017/05/26	2018/03/31
29	森林科学専攻	科研「森林昆虫―共生微生物の共進化と温度反応及び気候変動から予測される動態予測」	2017/06/01	2017/11/30
30	学外	二酸化窒素測定	2017/06/01	2017/06/02
31	応用生命工学専攻	バクテリアのコロニー形成の遺伝学的研究とその高効率検出・分離への応用	2017/06/05	2017/06/05
32	附属演習林	360 度カメラを用いたコウモリ類の撮影に関する技術的手法の確立と VR 技術への応用	2017/06/27	2017/12/05
33	附属演習林	倒木スクリーニング技術のための引き倒し試験打ち合わせ	2017/07/04	2017/07/04
34	森林科学専攻	スギ苗の水ストレスと伸長成長に関する研究	2017/07/21	2018/03/31
35	附属演習林	インターンシップ学生実習	2017/07/25	2017/07/26
36	附属演習林	トドマツにおける自殖による色素異常の実態と発現遺伝子の解析	2017/07/26	2018/03/31
37	学外	植物ウィルス相の解明	2017/08/01	2017/10/31
38	学外	2017 東大農場・演習林子どもサマースクール	2017/08/01	2017/08/01
39	附属演習林	外性菌根菌シノコッカムの接種による抵抗性マツの耐塩性付与に関する研究	2017/08/02	2018/03/31
40	森林科学専攻	オオタカの繁殖状況視察・打ち合わせ	2017/08/04	2017/08/04
41	森林科学専攻	教養学部全学自由研究ゼミナール「昆虫と節足動物の生物学」に関連した昆虫の野外実習	2017/08/21	2017/08/22
42	附属演習林	倒木スクリーニング技術のための引き倒し試験	2017/08/28	2017/09/24
43	附属演習林	講義で用いる北方針葉樹の苗畑での育成（トドマツの植栽）	2017/09/12	2017/10/18
44	附属演習林	体験活動プログラム「都内でも農林作業フィールドワーク体験」	2017/09/13	2017/09/20
45	附属演習林	トドマツ産地試験林から採取した枝の葉密度およびＬＭＡ測定	2017/09/13	2017/10/31
46	学外	現代日本論入門（下見、打ち合わせ含む）	2017/09/14	2017/12/10
47	農学生命科学研究科	平成 29 年度推薦入学者の田無演習林見学	2017/09/21	2017/09/21
48	新領域創成科学研究科	震災時に人命を守る自生食用植物の都市型圃場「防災植物園」の創造	2017/09/21	2018/03/31

49	学外	樹木クラスの授業の一環としての田無演習林の見学	2017/10/02	2017/10/02
50	学外	現代社会と環境	2017/10/11	2017/10/11
51	水圏生物科学専攻	ウナギ採捕調査用の漁具作成のための樹木の伐採枝および竹の譲り受け	2017/10/12	2017/10/12
52	アジア生物資源環境研究センター	環境調和特別演習　持続可能な農林畜水産業　1.環境負荷	2017/10/18	2017/10/18
53	学外	個体種別の生物起源有機化合物ガスの測定	2017/10/26	2017/11/13
54	学外	森林内における未知有機エアロゾルの分析手法の開発	2017/11/01	2018/03/31
55	附属演習林	平成 29 年度関東甲信越地区大学演習林等技術職員研修	2017/11/08	2017/11/09
56	附属演習林	全国多地点におけるコナラ丸太分解モニタリング	2017/11/16	2017/11/17
57	附属生体調和農学機構 生態調和農学機構	農場博物館における農業技術史の研究	2017/11/17	2017/11/17
58	農学生命科学研究科技術部	平成 29 年度東京大学教室系技術職員研修「刈払い機、チェーンソー等の点検研修・安全講習」	2017/11/20	2017/11/22
59	アジア生物資源環境研究センター	外生菌根菌の耐塩性に関する遺伝子の解明	2017/11/29	2018/03/31
60	学外	二酸化窒素測定	2017/11/30	2017/12/01
61	アジア生物資源環境研究センター	アカマツ苗に共存する他種の菌根菌が *Laccaria amethystina* の子実体形成と根外菌糸体に影響を与える	2017/12/07	2018/03/31
62	附属演習林	全学体験ゼミナール「森のエネルギーを使いこなす」（準備と実施）	2018/01/05	2018/01/27
63	附属生態調和農学機構	農業とアートを複合した活動が社会的支援を必要とする人たちに与える効果と影響	2018/01/11	2018/01/11
64	附属生態調和農学機構	竹加工品の自然教育への利用	2018/01/15	2018/01/29
65	森林環境資源科学専修	卒業論文作成にかかる森林技術業務の体験および GIS 研修会参加	2018/01/29	2018/02/28
66	附属演習林	基盤データ GIS 部門による GIS 指導整備研修	2018/01/30	2018/02/01
67	生物材料科学専攻	樹木における二酸化炭素同化産物の輸送と材形成に関する研究	2018/01/30	2018/01/30
68	理学系研究科附属植物園	レバノンシーダー及び同属の種同定のための遺伝子解析	2018/02/06	2018/02/06

VI 教育活動

1　農場・緑地

(1) 実習

1)　科目

専修・専攻	科目名等	単位	受講者数	期間および日数
応用生物学専修	フィールド農学基礎実習	4	20	S1,SP,A1,A2,金曜日，計24日
農業・資源経済学専修	農作業実習	1	31	6月6日，A1A2木曜日午後，計11日
生物・環境工学専修	生物・環境工学フィールドワーク	1	26	水曜日，S1午後，SP午前,計11日
国際開発農学専修	農場実習	1	20	6月6日～6月8日，9月20日
応用生物学専修	フィールド農学応用実習	1	18	7月10日～7月14日
緑地環境学専修	緑地環境実地実習	3	6	S1SPA1A2水曜日，計17日
緑地環境学・フィールド科学専修	保全生態学実習	2	17	SP，計5日
生命化学・工学専修	生命化学・工学実習	(2)	69	6月5日
国際開発農学専攻 国際農業開発コース (IPADS)	夏作物管理学の一部	(2)	7	S1-A1，木曜日，計4日
	冬作物管理学の一部	(2)	10	A1-SP，木曜日，計5日

2)　実習内容

項目名	担当教員	担当技術職員	フィールド農学基礎・応用実習	緑地環境実地演習	生物・環境工学フィールドワーク	農作業実習	農場実習	保全生態学実習
圃場試験実習	[生測]・佐々木和浩	曽我竜一・手島英敏	✓					
イネ	佐々木和浩	曽我竜一・手島英敏	✓		✓	✓	✓	✓
ムギ・ソバ	加藤洋一郎	久保田浩史・矢津田啓介・曽我竜一・手島英敏	✓			✓		
果樹	河鰭実之・本多親子	市川健一郎・和泉賢悟	✓		✓	✓		
トマト	河鰭実之	矢津田啓介・神川翔貴・臼井真由美	✓		✓	✓		

露地野菜	深野祐也・米川智司（耕耘）	矢津田啓介・神川翔貴・臼井真由美	✓		✓	✓		
サツマイモ	河鰭実之・	久保田浩史・矢津田啓介・臼井真由美	✓			✓		
ジャガイモ	[作物]	矢津田啓介・臼井真由美・久保田浩史	✓		✓			
オンシジウム	河鰭実之・	久保田浩史・白井深雪	✓					
キク	[園芸]	白井深雪・曽我竜一・手島英敏	✓					
ハス	[園芸]・河鰭実之	工藤新司・石川祐聖	✓	✓	✓			
栄養診断・養液栽培	[植分]・河鰭実之	矢津田啓介・市川健一郎	✓					
栽培植物	[作物]	久保田浩史・曽我竜一・矢津田啓介	✓					
植物病理実習	[植病・植医]	市川健一郎・白井深雪	✓					
土壌生態系	[栽培]	久保田浩史・工藤新司	✓	✓				
土壌の物理性	米川智司	市川健一郎・久保田浩史・和泉賢悟	✓				✓	
桑園管理	[昆遺]	工藤新司・石川祐聖	✓					
昆虫	[応昆]	工藤新司・石川祐聖	✓					
畑地雑草	山田晋・小山明日香	工藤新司・石川祐聖			✓			
水田雑草	山田晋・小山明日香	曽我竜一・手島英敏	✓	✓				
植物同定・植生調査・緑地植物管理	山田晋・小山明日香	石川祐聖・白井深雪・工藤新司		✓				
緑地植物栽培（ベンジャミン・ガジュマル）	山田晋・小山明日香	白井深雪・石川祐聖		✓				
農薬管理	河鰭実之	和泉賢悟・神川翔貴	✓					
つくば見学	[育種]		✓					

都市型農業見学	[栽培]・河鰭実之		✓			✓		
モモ・ブドウ管理	宮沢佳恵・河鰭実之	市川健一郎・和泉賢悟					✓	
キャベツ収穫	宮沢佳恵	白井深雪・矢津田啓介・石川祐聖					✓	

生命化学・工学実習

項目名	担当教員	担当技術職員
ガイダンス	妹尾啓史・藤原 徹・河鰭実之	
環境土壌学実習	土壌圏科学研	神川翔貴・市川健一郎・工藤新司・久保田浩史
植物栄養生理学実習	植物栄養･肥料学研・植物分子生理研・植物機能工学研	神川翔貴・市川健一郎・工藤新司
農作業基礎実習（農作業機体験）	河鰭実之	芝野伸策・曽我竜一・和泉賢悟・矢津田啓介・石川祐聖・神川翔貴・臼井真由美

(2) 大学院講義

講義名	担当教員	学期	単位	受講者数
生産生態学演習 I	河鰭実之・山岸順子・米川智司・安永円理子・高田まゆら・加藤洋一郎・本多親子	通年	4	2
生産生態学演習 II	河鰭実之・山岸順子・米川智司・安永円理子・高田まゆら・加藤洋一郎・本多親子	通年	4	2
生産生態学特別実験 I	河鰭実之・山岸順子・米川智司・安永円理子・高田まゆら・加藤洋一郎・本多親子	通年	6	2
生産生態学特別実験 II	河鰭実之・山岸順子・米川智司・安永円理子・高田まゆら・加藤洋一郎・本多親子	通年	6	2
生産・環境生物学特別演習	河鰭実之・山岸順子・米川智司・安永円理子・高田まゆら・加藤洋一郎・本多親子	通年	10	5
生産・環境生物学特別実験	河鰭実之・山岸順子・米川智司・安永円理子・高田まゆら・加藤洋一郎・本多親子	通年	10	5

講義名	担当教員	学期	単位	受講者数
耕地生圏生態学演習	山岸順子・高田まゆら・本多親子（分担）	通年	4	2
耕地生圏生態学特別演習	山岸順子・高田まゆら・本多親子（分担）	通年	8	2
生圏システム学実験･研究	山岸順子・高田まゆら・本多親子（分担）	通年	12	2
生圏システム学特別実験･研究	山岸順子・高田まゆら・本多親子（分担）	通年	12	2
生産生態学特論	河鰭実之・米川智司・安永円理子・加藤洋一郎・本多親子・佐々木和浩・深野祐也	A1A2	2	7
耕地生圏生態学	山岸順子・高田まゆら	A 1 A2	2	2
生産・環境生物学特別講義	深野祐也（分担）	通年	2	22
生圏システム学特論	山岸順子（分担）・高田まゆら（分担）山田晋（分担）・深野祐也(分担)	冬	2	18
食の科学ゼミナールⅠ（学部科目：食の安全研究）	安永円理子（分担）	S1S2A1	2	38

(3) 学部（農学部、教養学部）

講義名	担当教員	学期	単位	受講者数
教養学部　農学総合科「放射線環境学」	安永円理子（分担）	A1A2	2	98
教養学部　総合科目「アグリバイオロジー」	加藤洋一郎（分担 1 回）	A1	1	47
全学自由研究ゼミナール「農作物を知る」	河鰭実之・安永円理子・米川智司・小山明日香・細井文樹・深野祐也・海津裕・高田まゆら・本多親子・加藤洋一郎・柴田道夫・佐々木和浩	S1, S2	1	36
持続的植物生産学	米川智司	A2	1	28
ストレス生物学	河鰭実之・加藤洋一郎	A2	1(2)	54
雑草学	山田晋（分担）	A1,A2	2	45
緑化工学	山田晋（分担）	W	2	38
園芸学Ⅰ	河鰭実之（分担）	A1	2	32
作物学Ⅰ	加藤洋一郎（分担 1 回）	S1	1	24
農学リテラシー	河鰭実之	A1	2	301

講義名	担当教員	学期	単位	受 講 者 数
卒業論文（生物・環境工学専修）	河鰭実之・米川智司・安永円理子	通年	8	2

(4) 他大学講義

講義名	担当教員	開講日	受講者数
明治大学大学院園芸植物生理学特論I，II	河鰭　実之	毎週土曜日（全30回）	7
東京農工大学園芸作物学特論	河鰭　実之	毎週金曜日（全12回）	40

(5) 学位論文

1)　博士論文

鄭　煥　「Morphological and Molecular Biological Analyses of the Inflorescence Architecture in Tomato （トマトにおける花序構造の形態学的および分子生物学的解析)」
（生産・環境生物学専攻　指導教員　河鰭 実之）

2)　修士論文

大根田　将士　「早朝開花性遺伝子を導入したコシヒカリ新規系統における高温不稔の軽減」
（農学国際専攻　指導教員　宮沢佳恵）

麥田　隼希　「屋上緑化の雨水流出抑制効果に植物種の違いとバイオチャーの利用が与える影響」
（生圏システム学専攻　指導教員　大黒 俊哉）

汪　姪　「ペチュニアの八重咲き化の分子機構に関する研究」
（生産・環境生物学専攻　指導教員　河鰭 実之）

3)　卒業論文

矢田　悠介　「完全人工光型植物工場における放射熱環境に関する研究」
（生物・環境工学専修　指導教員　河鰭 実之）

渡辺　琢真　「モモの船舶輸出のための包装容器の評価」

（生物・環境工学専修　指導教員　安永 円理子）

2　田無演習林

(1) 実習

専修・専攻	科目名	単位	受講者数	期間および日数
教養学部前期課程	全学体験ゼミナール「都市の緑のインタープリター養成―子どもに伝える自然体験―」	2	5	5月6日、5月13日、6月4日
教養学部前期課程	全学自由研究ゼミナール「昆虫と節足動物の生物学」		8	8月21日，8月22日
教養学部前期課程	全学体験ゼミナール「森のエネルギーを使いこなす」	2	5	1月27日
森林生物科学専修・森林環境資源科学専修	造林学実験	2	23	4月17日、5月22日、7月24日
森林生物科学専修・森林環境資源科学専修	森林動物学実験	2	23	5月12日、9月20日
応用生物学専修	フィールド農学応用実習	1	20	7月12日
緑地環境学専修	緑地環境実地実習	3	5	4月5日，4月19日，1月10日
研究科共通科目	農林水畜産業と環境負荷	1	21	10月18日

項目名	担当教員	担当技術職員
全学体験ゼミナール「都市の緑のインタープリター養成―子どもに伝える自然体験―」	楠本　大・安村直樹・竹本周平	栗田直明・相川美絵子
全学自由研究ゼミナール「昆虫と節足動物の生物学」	久保田耕平・星崎杉彦	
全学体験ゼミナール「森のエネルギーを使いこなす」	安村直樹・齋藤暖生・當山啓介・山田晋・小山明日香	栗田直明
造林学実験	丹下　健・益守眞也・楠本大	栗田直明・相川美絵子
森林動物学実験	久保田耕平	栗田直明・相川美絵子
フィールド農学応用実習	根本圭介・山田　晋	栗田直明・相川美絵子
緑地環境実地実習	山田　晋・小山明日香	栗田直明・相川美絵子・芝野伸策・石川祐聖・工藤新司

農林水畜産業と環境負荷	鴨下顕彦・竹本周平	

(2) 講義

1)　大学院（森林科学専攻、生圏システム学専攻）

講義名	担当教員	学期	単位	受講者数
森林圏管理システム学	安村直樹・藤原章雄	当年度開講なし		2
森林圏生態社会学演習	安村直樹（分担）	S1A1A2W	1	4
生圏システム学実験･研究	安村直樹（分担）	S1A1A2W	1	12
森林科学特別実験	安村直樹（分担）	通年※	1	10
森林科学特別演習	安村直樹（分担）	通年	1	10
森林生態社会学特別演習	安村直樹（分担）	S1A1A2W	1	8
生圏システム学特別実験･研究	安村直樹（分担）	通年	0	12
森林生態圏管理学特別演習Ⅱ	安村直樹（分担）	通年	1	12
森林生態圏管理学特別実験Ⅱ	安村直樹（分担）	通年	1	8
森林生物機能学	楠本　大（分担）	A1	0	2
森林遺伝子機能開発学	楠本　大（分担）	当年度開講なし		2
森林生物機能学演習	楠本　大（分担）	S1A1A2W	0	4
生圏システム学実験･研究	楠本　大（分担）	S1A1A2W	0	12
森林科学特別実験	楠本　大（分担）	通年	0	10
森林科学特別演習	楠本　大（分担）	通年	0	10
森林生物機能学特別演習	楠本　大（分担）	S1A1A2W	0	8
生圏システム学特別実験･研究	楠本　大（分担）	通年	0	12
森林生態圏管理学特別演習Ⅰ	楠本　大（分担）	通年	0	12
森林生態圏管理学特別実験Ⅰ	楠本　大（分担）	通年	0	8

※すべてのターム（S1・SP・A1・A2・W）にわたっているものを通年と略す

2)　学部（農学部、教養学部）

講義名	担当教員	学期	単位	受講者数
森林生態圏管理学	安村直樹（分担）･楠本大（分担）	S1・SP	2	35
教養学部　全学体験ゼミナール「都市の緑のインタープリター養成－子どもに伝える自然体験」	楠本　大･安村直樹･竹本周平	S1・S2	2	5
教養学部　全学体験ゼミナール「スギとヒノキ」	安村直樹（分担）	S2	2	19

講義名	担当教員	学期	単位	受講者数
教養学部　全学体験ゼミナール「森のエネルギーを使いこなす」	安村直樹（分担）	A2	2	5
森林政策学	安村直樹（分担）	S1・SP	2	27
森林政策学演習	安村直樹（分担）	S1・SP	2	12
造林学実験	楠本　大（分担）	S1・SP	2	23
森林植物学実験	楠本　大（分担）	S1・SP	2	23

VII 研究活動

1　研究の概要

生態調和農学機構の理念のもと，生物多様性や環境に配慮した農業生態系管理，環境変動に対応した作物栽培技術，持続的な植物生産など，世界的な重要課題を解決すべく，情報・社会研究領域，農林生態系研究領域，生物・物質循環研究領域を置き，それぞれの観点から研究を展開している．

2　主要研究課題

(1) 生産環境農学

1)　園芸花卉みられる優性の八重咲き性に関する研究
2)　紫外線による植物のストレス応答に関する研究
3)　収穫後のリンゴ果実に対する着色促進技術の開発
4)　赤果肉リンゴにおける着色変動要因の解明
5)　不良栽培環境における気候変動適応技術の開発
6)　作物栽培システムの持続性に関する多面的評価
7)　イネの高温不稔を回避する早朝開花性に関する研究
8)　共生細菌と相互作用するイネの遺伝子に関する研究
9)　インディカ品種の直播適性向上を目指した発芽形質に関する研究
10)　混植や輪作に適したダイズ品種の探索

(2) 森林圏科学

1)　北海道における林業用苗木生産工程の把握—とくに季節性とその緩和に注目して—
2)　樹木防御反応の誘導・調節に対する細胞間シグナル物質の機能解明
3)　シカの不嗜好性植物に含まれる忌避物質の定量
4)　土壌病原菌である白紋羽病菌 *Rosellinia necatrix* および類縁菌の分類と生態に関する研究
5)　担子菌スエヒロタケを用いた腐朽病害のメカニズム解明

(3) 社会経済農学

1)　農業技術史（農業機械史・農業教育史）に関する研究
2)　農作業安全に関する研究

(4) 農業工学

1)　果実の生産環境・収穫後環境の最適化に関する研究
2)　ドローン空撮写真を利用したハイスループット・フェノタイピングに関する研究
3)　ドローン空撮写真を利用したもも樹のの整枝・剪定効果の評価
4)　省エネ型の植物工場の開発

（5）境界農学

1)　農業とアートを複合した活動が社会的支援を必要とする人たちに与える効果と影響
2)　医農食連携における高齢者の QOL 改善に資する研究
3)　多様な在来種が生育する草地植生は河川堤防法面に創出可能か？
4)　身近な在来野草による日本らしい自然再生
5)　有機無農薬水稲栽培年数の経過に伴って土壌・水稲・雑草・動物はどう変化するか？
6)　堤防緑化施工地における帰化植物セイバンモロコシの発芽・定着メカニズム解明
7)　北東アジアの砂漠化地域における生態系サービス再生を促進する植生修復技術の開発
8)　半自然草地造成後の微生物相モニタリング
9)　植物の自他識別を作物生産に応用する研究
10）外来種管理における進化的観点の重要性に関する研究
11）性比理論を動物園管理に応用する研究
12）防鹿柵設置による絶滅危惧動植物の保全・再生効果の検証
13）登山靴による種子散布の定量評価
14）東北における斑点米カメムシ類発生の時空間的変動パターンの解明

3　生態調和農学機構教員の研究業績

（1）原著論文

1)　Fan, X., Kawamura, K., Guo, W., Xuan, T.D., Lim, J., Yuba, N., … Wang, Z. (2017). A simple visible and near-infrared (V-NIR) camera system for monitoring the leaf area index and growth stage of Italian ryegrass. *Computers and Electronics in Agriculture.* Doi.org/10.1016/j.compag.2017.11.025
2)　Fukuda, S., Spreer, W., Wiriya-Alongkorn, W., Spohrer, K. Yasunaga, E., & Tiyayon, C. Random forests as a tool for analyzing partial drought stress based on CO2 concentrations in the rootzone of longan trees. *Environmental Control in Biology,* in press.
3)　Guo, W., Zheng, B., Duan, T., Fukatsu, T., Chapman, S., & Ninomiya, S. (2017). EasyPCC: benchmark datasets and tools for high-throughput measurement of the plant canopy coverage ratio under field conditions. *Sensors*, 17(4), 798.
4)　Hata, A., Takada, M. B.*, Nakashita, R., Fukasawa, K., Oshida, T., Ishibashi, Y., & Sato, Y. (2017). Stable isotope and DNA analyses reveal the spatial distribution of crop-foraging brown bears. *Journal*

of Zoology, 303, 207-217.

5) Honda, C., Iwanami, H, Naramoto, K., Maejima, T., Kanamaru, K., Moriya-Tanaka, Y., Hanada T., & M. Wada, M. (2017). Thinning and bagging treatments and the growing region influence anthocyanin accumulation in red-fleshed apple fruit. *The Horticulture Journal*, 86, 291-299.

6) Ishimaru, T., Qin, J., Sasaki, K., Fujita, D., Gannaban, R. B., Lumanglas, P. D., ... & Collard, B. (2017). Physiological and morphological characterization of a high-yielding rice introgression line, YTH183, with genetic background of Indica Group cultivar, IR 64. *Field Crops Research*, 213, 89-99.

7) Kakinuma, K., Terui, A., Sasaki, T., Koyama, A., Jamsran, U., Okuro, T., & Takeuchi, K. (2017). Detection of vegetation trends in highly variable environments after grazing exclusion in Mongolia. *Journal of Vegetation Science,* 28(5),965-974.

8) Koyama, A., Koyanagi, T. F., Akasaka, M., Kusumoto, Y., Hiradate, S., Takada, M., & Okabe, K. (2017). Partitioning the plant diversity of semi-natural grasslands across Japan. *Oryx*, 1-8.

9) Koyama, A., Koyanagi, T. F., Akasaka, M., Takada, M., & Okabe, K. (2017). Combined burning and mowing for restoration of abandoned semi-natural grasslands. *Applied Vegetation Science*, 20(1), 40-49.

10) Watanabe, K., Guo, W., Arai, K., Takanashi, H., Kajiya-Kanegae, H., Kobayashi, M., ... & Iwata, H. (2017). High-throughput phenotyping of sorghum plant height using an unmanned aerial vehicle and its application to genomic prediction modeling. *Frontiers in Plant Science,* 8, 421.

11) Lee, H. S., Sasaki, K., Kang, J. W., Sato, T., Song, W. Y., & Ahn, S. N. (2017). Mesocotyl elongation is essential for seedling emergence under deep-seeding condition in rice. *Rice*, 10(1), 32.

12) Liu, S., Oshita, S., Kawabata, S., & Thuyet, D. Q. (2017). Nanobubble water's promotion effect of barley (Hordeum vulgare L.) sprouts supported by RNA-Seq analysis. Langmuir, 33(43), 12478-12486.

13) Mu, Y., Wang, F., Zheng, B., Guo, W., & Feng, Y. (2017). McGET: A rapid image-based method to determine the morphological characteristics of gravels on the Gobi Desert surface. *Geomorphology*. doi:10.1016/j.geomorph.2017.12.027

14) Nadimi-Goki, M., Bini, C., Wahsha, M., Kato, Y., Fornasier, F. (2017). Enzyme dynamics in contaminated paddy soils under different cropping patterns (NE Italy). *Journal of Soils and Sediments*, doi:10.1007/s11368-017-1830-1

15) Nagle, M., Yasunaga, E., Mahayothee, B., & Müller. J. Potential for sensor systems to monitor fruit physiology of mango during long-distance transport. *Environmental Control in Biology*, in press.

16) Nakahara, T., Fukano, Y., Hirota, S. K., & Yahara, T. (2018). Size advantage for male function and size-dependent sex allocation in Ambrosia artemisiifolia, a wind-pollinated plant. *Ecology and Evolution*, in press.

17) Osawa, T., Yamasaki, K., Tabuchi, K., Yoshioka, A., & Takada, M. B. (2018). Detecting crucial dispersal pathways using a virtual ecology approach: A case study of the mirid bug Stenotus

rubrovittatus. Ambio, DOI: https://doi.org/10.1007/s13280-018-1026-y

18）Osawa, T., K. Yamasaki, K. Tabuchi, A. Yoshioka, and M. B. Takada. 2018 Detecting crucial dispersal pathways using a virtual ecology approach: A case study of the mirid bug Stenotus rubrovittatus. Ambio,

19）Sasaki, K., Fujita, D., Koide, Y., Lumanglas, P. D., Gannaban, R. B., Tagle, A. G., ... & Ishimaru, T. (2017). Fine mapping of a quantitative trait locus for spikelet number per panicle in a new plant type rice and evaluation of a near-isogenic line for grain productivity. *Journal of Experimental Botany*, 68(11), 2693-2702.

20）Yang, J. F., Chen, Y. Z., Kawabata, S., Li, Y. H., & Wang, Y. (2017). Identification of light-Independent anthocyanin biosynthesis mutants induced by ethyl methane sulfonate in turnip “Tsuda” (*Brassica rapa*). *International Journal of Molecular Sciences,* 18(7), 1288.

21）Yasunaga, E., Fukuda, S., Nagle, M., & Spreer, W. Effect of storage conditions on the postharvest quality changes of fresh mango fruits for export during transportation. *Environmental Control in Biology*, in press.

22）Yasunaga, E., Fukuda, S., Takata, D., Spreer, W., Sardsud, V., & Nakano, K. Quality changes in fresh mango fruits (*Mangifera indica* L. ‘Nam Dok Mai’) under actual distribution temperature profile from Thailand to Japan. *Environmental Control in Biology*, in press.

23）Yoshida, T., Tokinoya, A., & Fukano, Y. (2017). Activity-densities of ground-dwelling invertebrate assemblages in the transition zone between adjacent conifer and hardwood forests. *Journal of Forest Research*, 1-5.

24）Zheng, H., & Kawabata, S. (2017). Identification and validation of new alleles of *FALSIFLORA* and *COMPOUND INFLORESCENCE* genes controlling the number of branches in tomato inflorescence. *International Journal of Molecular Sciences*, 18(7), 1572.

25）江川知花，西村愛子，小山明日香，& 露崎史朗. (2017). 北海道サロベツ湿原泥炭採掘跡地における外来植物の侵入. 保全生態学研究, 22(1), 187-197.

26）小山明日香，& 岡部貴美子. (2017). 生物多様性オフセットによるノーネットロス達成の生態学的課題. 森林総合研究所研究報告, 16(2), 61-76.

27）根本正之，山田晋. (2017). チガヤ型植物多様性ホットスポットに侵入したセイタカアワダチソウの影響評価. 日本緑化工学会誌 42, 433-436.

28）山田晋，根本正之. (2017). 河川高水敷における裸地の出現時期がその後の成立植生に及ぼす影響. 日本緑化工学会誌 43, 39-44.

29）山田晋，根本正之，小柳知代，山本嘉昭，八木裕人. (2017). 植物種多様性の高い河川堤防半自然草地における植生と立地特性. 日本緑化工学会誌 42, 428-432.

(2) 総説

1) Honda, C., & Moriya, S. (2018). Anthocyanin Biosynthesis in Apple Fruit. The Horticulture Journal , doi: 10.2503/hortj.OKD-R01.

(3) 著書・訳書

1) 深野祐也. 外来種における生態—進化の相互作用と外来種管理への応用可能性,「遺伝子・多様性・循環の科学：生態学の領域融合へ」（京都大学出版会）. (印刷中)
2) 本多親子. (2017). 果皮の着色と気温との関係. リンゴ　基礎編　品種生態と栽培 最新農業技術 果樹（農山漁村文化協会）, 10, 207-212.
3) 河鰭実之（監修）. 「47 都道府県野菜・くだもの辞典」 (汐文社). （印刷中）
4) 木谷収，米川智司，佐藤邦夫，菊池豊，安藤信貴，齋藤智，津島正，八木沼好美，実教出版. (2018). 「農業機械（文部科学省検定済教科書　高等学校農業科用）」(実教出版). 東京.

(4) 解説記事等

1) Fukuda, S., Spreer, W., Nagle, M., & Yasunaga, E. Preface: Sensors and monitoring for production and distribution of a tropical fruit. Environmental Control in Biology, in press.

(5) 学会発表

1) Guo, W., D. Takata, Y., Fujii, K., Noshita, K., Honda, Ninomiya, S. (2017). Evaluation of canopy structure of peach tree by using consumer level unmanned aerial vehicles, EFITA CONGRESS – Montpellier, France – 2017/07/03. （査読付き抄録）
2) Honda, C., Okada, K., & Tatsuki, M. (2017). Preharvest application of 1-MCP suppresses anthocyanin accumulation in red-fleshed fruit of 'Pink Pearl' apple. 27-30 August 2017, XIII International Syposium on Plant Bioregulators in Fruit Production, Chiba, Japan.
3) Ohno, H., Bueno, C., Banayo, N.P.M., Kashiwagi, J., Nakashima, T., Iwama, K., & Kato, Y. (2017). On-farm evaluation of the new drought-tolerant rice variety in rainfed lowlands: a case study of dry direct seeding in the Philippines. 20-22 November 2017, TropAg2017 (International Tropical Agricuture Conference), Brisbane, Australia.
4) Suzuki, M., Takagi, T., Kusumoto, D. (2017). Gap creation in post-coppice woodlands may increase both resilience and resistance of plant species against ungulate herbivory: an analysis based on life-history strategy theories. 18-22 September 2017, IUFRO 125th Anniversary Congress 2017, Freiburg, Germany.
5) Taguchi, K., Guo, W., Atsushi Ito, Okazaki Kazuyuki, Yosuke Kuroda, Hiroaki Matsuhira, Shigenori Ueda, Seishi Ninomiya, Masayuki Hirafuji. Time series growth pattern data relates to root weight of sugar beet. 農業×情報通信ワークショップ 2017, 鶴岡市先端研究産業支援セン

ター，2017 年 11 月 16~17 日

6） Taguchi, K., Guo, W., Ito, A., Okazaki, K., Kuroda, Y., Matsuhira, H., Ueda, S., Ninomiya, S., Hirafuji, M. (2017). ４D canopy analysis with UAV to sugar beet F1s over breeding research field. 2017 EFITA CONGRESS – Montpellier, France – 2017/07/03. （査読付き抄録）

7） Taguchi, K., Guo, W., Ito, A., Okazaki, K., Kuroda, Y., Matsuhira, H., Ueda, S., Ninomiya, S., Hirafuji, M. (2018). Heterosis measurement initiatives on time series growth pattern of sugar beet. Plant and Animal Genome Conference XXV, Town and Country Hotel, San Diego, CA, U.S.A. 2018/01/13

8） Takemoto, S. (2017). The fungal genus Rosellinia (Xylariaceae: Xylariales) in Japan and necessity of survey in Asian countries. 27 Nov 2017, International Symposium on Analysis of long-term monitoring data in Asian forests: towards further understanding of environmental changes and ecosystem responses, Bangkok, Thailand.

9） Takemoto, S. (2017). The fungal genus Rosellinia (Xylariaceae: Xylariales), its importance and call for collaborative study in Asian countries. 28 Nov 2017, International Symposium on Analysis of long-term monitoring data in Asian forests: towards further understanding of environmental changes and ecosystem responses, Bangkok, Thailand.

10） Tomita, Y., Kajita, S., Ohno, N., Tanaka, H., Yasunaga, E., & Motojima, G. (2017). Nanostructures formation on platinum and tungsten carbide by He plasma irradiation. Plasma Conference 2017, November 20-24, The Himeji Chamber of Commerce and Industry, Himeji, Japan.

11） Tomita, Y., Kajita, S., Yasunaga, E., Yoshida, T., Ohno, N., & Tanaka, Hirohiko. (2018). Fabrication of nanostructured TiO2 by He plasma irradiation. ISPlasma/IC-PLANTS 2018, March 4-8 2018, Meijo University, Nagoya, Japan.

12） 深野祐也，小峰浩隆．(2018)．進化を考慮した外来種管理の枠組みを検討する．第 65 回日本生態学会シンポジウム: 「進化を考慮した応用生態学の展開：理論と実践」

13） 福田大朗，塩崎麻由，佐々木和浩，青木直大，&吉田薫．(2017)．イネ幼植物体におけるリン欠耐性の品種間比較.日本育種学会第 132 回講演会,岩手大学, 10 月 6-7 日.

14） 濱中大介，黒岩千咲，安永円理子，中本義範，渡部由香．（2017）次亜塩素酸ナトリウムを用いたバイオフィルム除去処理に及ぼす微細気泡水の併用効果．日本防菌防黴学会第 44 回年次大会， 2017 年 9 月 26～27 日，千里ライフサイエンスセンター，大阪.

15） 原田真輔，佐々木和浩，実岡寛文，&上田晃弘．(2017)． イネの低カリウム耐性機構に関する栄養生理学的解析.日本土壌肥料学会関西支部講演会, 橿原市， 12 月 7 日.

16） 橋田祥子, 橋本侑樹, 大森宏, 井原智彦, 河鰭実之. (2018). 農地のヒートアイランド緩和効果に関する実測研究. 園芸学会平成 30 年度春季大会，近畿大学，3 月 24-25 日.

17） 服部隆征，山崎和久，高田まゆら，宮沢佳恵，青木茂，岡本研，加藤洋一郎，曽我昌史，山岸順子，& 吉田薫. (2018). 有機質肥料と化学肥料の 25 年間連用施肥が畑の節足動物群集に

及ぼす影響. 第 65 回日本生態学会大会, 北海道大学, 3 月 14-18 日.

18) 伊藤淳士，郭威，星典宏．(2017). 傾斜地圃場など多様な環境に対応した UAV による圃場センシング, 農業情報学会 2017 年度年次大会，５月１８日，東京，日本.

19) 伊藤淳士，郭威，田口和憲. (2017). UAV を活用した効率的な圃場センシングのためのツール群の開発．農業×情報通信ワークショップ 2017，鶴岡市先端研究産業支援センター, 11 月 16~17 日

20) 井手竜也, & 小山明日香. (2018). アカガシの堅果に寄生するタマバチ科未記載種とその生態の推定. 第 65 回日本生態学会大会, 札幌, 2018 年 3 月 14-18 日.

21) 金道知聖, 楠本 大, 久本洋子.（2018.）地下の障害物がモウソウチク実生苗の成長に与える影響．第 129 回日本森林学会大会，高知大学，3 月 26-29 日.

22) 兼田朋子，中村宣貴，志水基修，安永円理子，深松陽介，中野龍平，福田文夫，中島成美，馬場正.（2017）東南アジア向け海上輸送時の流通環境が徳島県産イチゴ果実品質に及ぼす影響．日本食品保蔵科学会第 66 回大会（高知大会），2017 年 6 月 24 日～26 日，高知県立大学，高知市.

23) 金杉真人，増田幸子，佐々木和浩，&岡崎伸．(2017). 施肥管理の異なる低リン酸圃場における イネ共生菌根菌の群集構造解析. 植物微生物研究会第 27 回研究交流会,京都大学, 9 月 20-22 日.

24) 小山明日香，江川知花，滝久智，安田美香，神崎菜摘，井手竜也，& 岡部貴美子. (2018). 半都市域において外来植物は在来ミツバチの花粉資源として季節依存的役割を果たす. 第 65 回日本生態学会大会, 札幌, 3 月 14-18 日.

25) 黒倉健・河鰭実之. (2017). R. chinensis 八重咲き形質原 因変異の探索. 園芸学会平成 29 年度秋季大会，酪農学園大学，9 月 2-4 日.

26) 楠本 大（2018）ヒノキ師部の傷害樹脂道形成と傷害エチレン生成の特性．第 129 回日本森林学会大会，高知大学，3 月 26-29 日.

27) 松岡 達也・土屋 一彬・山田 晋・大黒俊哉、粗放型屋上緑化での CAM 植物の混植の効果は蜜源植物の生育特性で異なるか、日本生態学会第 65 回全国大会、P2-067、札幌コンベンションセンター、2018 年 3 月

28) 松下美和子，山根久代，本多親子，岡田和馬，森谷茂樹，&田尾龍太郎． (2018). リンゴ休眠芽で発現する MdFLC-like 遺伝子の機能評価． 園芸学会平成 30 年度春季大会，近畿大学，3 月 24-25 日.

29) 西村富男，佐々木和浩，山口琢也，山岸順子，& 加藤洋一郎．(2017). イネの無酸素発芽および鞘葉伸長に関わる遺伝子座の検出と温度との関係. 第 244 回日本作物学会講演会, 岐阜大学, 9 月 14-15 日.

30) 大根田将士，佐々木和浩，小林和彦，宮沢佳恵，若松謙一，田中明男，&平林秀介．(2017). コシヒカリ早朝開花遺伝子新規導入系統による高温不稔の軽減. 日本作物学会第 244 回講演

会, 岐阜大学, 9 月 14-15 日.

31）中浜直之, 岩崎貴也, 内田圭, 小山明日香, 尾関雅章, & 須賀丈. (2018) 霧ヶ峰高原の大規模防鹿柵設置がもたらす草原性昆虫及び植物多様性への保全効果. 第 65 回日本生態学会大会, 札幌, 2018 年 3 月 14-18 日.

32）中村宣貴，兼田朋子，安永円理子，深松陽介，福田文夫，中野龍平，志水基修，北澤裕明，根井大介，永田雅靖，椎名武夫.（2017）香港・シンガポールへの生鮮青果物輸出時の流通環境評価．日本食品保蔵科学会第 66 回大会（高知大会），2017 年 6 月 24 日～26 日，高知県立大学，高知市.

33）佐々木和浩, 藤田大輔, 小出陽平, Patrick D. Lumanglas, Ritchel B. Gannaban, Analiza G. Tagle, 福田善通，小林伸哉，&石丸努．(2017). イネ一穂籾数に関わる遺伝子座 qTSN12.2 の検出と収量性への効果. 日本作物学会第 244 回講演会, 岐阜大学, 9 月 14-15 日.

34）佐々木和浩，増田幸子，風間ゆり，木皿千春，竹田晶子，半澤栄子，佐藤雅志，& 南澤究 . (2017). イネの根の生育を指標とした Azospirillum sp. strain B510 接種に応答する QTL の検出. 環境微生物系学会合同大会 2017,東北大学, 8 月 29-31 日

35）志水 基修，佐々木 彰三，中野 龍平，深松 陽介，福田 文夫，安永 円理子，中村 宜貴，兼田 朋子.（2017）海運による果物の輸出において透湿度を制御した段ボール箱が箱の強度保持と果物の蒸散抑制に及ぼす影響．日本包装学会第 26 回年次大会，2017 年 7 月 11 日，東京大学，東京.

36）塩崎麻由，福田大朗，佐々木和浩，青木直大，&吉田薫．(2017). イネにおけるリンの転流と貯蔵に関する品種間差異.日本育種学会第 132 回講演会,岩手大学, 10 月 6-7 日.

37）鈴木康大，繁田亮，宮元直也，佐々木和浩，&川原圭博．(2017).農業向け多用途計測回路の実装とセルフキャリブレーション可能な薄膜実装水田水位計への応用. 電子情報通信学会, 鶴岡市， 11 月 16-17 日.

38）鈴木 牧・髙木豊大・三次充和・軽込 勉・藤平晃司・久本洋子・楠本 大（2018）シカは二次遷移を止めるか？―二次林伐採＋シカ柵実験の 8 年間の軌跡から―．第 65 回日本生態学会大会，札幌コンベンションセンター，3 月 14-18 日.

39）鈴木牧・髙木豊大・楠本 大・久本洋子（2018）シカ過密地域の二次林をどうするか？～10 年の実験結果から～．第 129 回日本森林学会大会，高知大学，3 月 26-29 日.

40）田口和憲，郭威，伊藤淳士，岡崎 和之，黒田 洋輔，松平 洋明，上田 重文，二宮 正士，平藤 雅之．UAV による育種圃場テンサイ F1s の 4D 地上部生育解析．日本育種学会，2017 年 3 月 29 日，名古屋大学，日本.

41）髙木豊大・楠本 大・鈴木 牧（2018）放棄二次林における伐採とシカ柵の設置が植物の機能群特性に与える影響．第 65 回日本生態学会大会，札幌コンベンションセンター，3 月 14-18 日.

42）田中陽介，深野祐也，中村壮登．(2018). 飼育下アイアイの出生性比に関する研究．第 62 回

プリマーテス研究会:

43）鳥居正人・楠本 大・山田利博（2017）Raffaelea quercivora の病原力と細胞壁分解酵素活性との関連．樹木医学会第 22 回大会，法政大学，11 月 11-12 日．

44）梅林利弘・福田健二・内海泰弘・楠本 大・佐野雄三（2018）針葉樹 2 種の苗木において根切りと水ストレスが通水に及ぼす影響．第 129 回日本森林学会大会，高知大学，3 月 26-29 日．

45）和田雅人，岡田和馬，岩波宏，森谷茂樹，花田俊男，守谷友紀，本多親子，清水拓，& 阿部和幸． (2017). リンゴのカラムナー樹形変異の解析. 第 35 回日本植物細胞分子生物学会，埼玉大学，8 月 29-31 日.

46）安村直樹ら．(2017)．北海道における林業用苗木生産工程の把握：とくに季節性とその緩和に注目して．林業経済学会秋季大会，九州大学，2017 年 11 月 11 日

47）米川智司. (2018). 東日本大震災前後 10 年間の農作業死亡事故の傾向. 日本農作業学会第 53 回講演会, 宇都宮大学,3 月 18 日. 農作業研究. 53(別 1), 59-60.

（6）招待講演

1） Guo, W. (2017). Field based Phenotyping by using drone remote sensing and image analyzing techniques. Workshop: High-Throughput Biology to Accelerate Crop Improvement, The University of Tokyo, 2017/06/19

2） 安村直樹.（2018）.森林研究者の立場から―気持ちよく納められる森林環境税とは？―.東京大学演習林シンポジウム，東京大学弥生講堂,3 月 1 日

3） 安村直樹.（2018）.北海道における林業用苗木生産の様子.茨城県林業種苗協同組合研究発表会，茨城県林業協会,1 月 25 日

4） 郭威.（2017）画像データフィケ―ションによるアフォーダブルフィールドフェノタイピングの実現． 農業情報学会 2017 年度年次大会，シンポジウム，ドローンはどこへ向かうのか？ ２０１７年５月１８日，東京，日本.

5） 郭威.（2018）農業生産現場における人工知能技術の応用．植物工場勉強会第 117 回，人工知能は植物工場技術をどのようにかえるのか？ NPO 植物工場研究会，千葉大学，2017 年 2 月 7 日.

6） 山尾僚，深野祐也．(2017)． つる植物の巻き鬚における多様な識別能 ．2017 年日本生態学会関東地区会シンポジウム: 「のびる，つかまる，つながる　～つる植物の多様な生態～」

（7）受賞

1） 大根田将士，佐々木和浩，小林和彦，宮沢佳恵，若松謙一，田中明男，&平林秀介．日本作物学会第 244 回講演会優秀発表賞． コシヒカリ早朝開花遺伝子新規導入系統による高温不

稔の軽減. 2017 年 9 月 14-15 日.

2) 安永円理子. 日本生物環境工学会貢献賞第 7 号 ,「和文誌への貢献」2017 年 9 月.

3) 米川智司. (2018). 平成 30 年度 日本農作業学会 功績賞, 「優秀地域貢献賞の新設による学会活性化への貢献」, 3 月 17 日.

(8) 研究助成

1) 郭威（研究分担者）「データ科学で実現する気候変動下における持続的作物生産支援システム」JST 戦略的国際共同研究プログラム（SICORP）インド ICT 分野「国際共同研究拠点」（H28～H33）研究代表者：二宮正士

2) 郭威（研究分担者）「フィールドセンシング時系列データを主体とした農業ビッグデータの構築と新知見の発見」JST 戦略的創造研究推進事業 CREST（H27～H32）研究代表者：平藤雅之

3) 郭威（研究代表者）「ドローン空撮写真を利用したもも樹のの整枝・剪定効果の評価」中部大学 問題複合体を対象とするデジタルアース, 共同利用・共同研究拠点, IDEAS201603（H27～H28）

4) 郭威（研究代表者）「高精度多次元画像データ解析による植物形質評価手法の開発」JST AIP チャレンジ（H27～H28）

5) 本多親子（研究分担者）他「収穫後のリンゴ果実に対する着色促進技術の開発」生物系特定産業技術研究支援センター「革新的技術開発・緊急展開事業」（うち先導プロジェクト）「国産果実の供給期間拡大を目指した鮮度保持・栽培技術の開発」研究代表者：中嶋直子　(2016 年度-2020 年度）.

6) 加藤洋一郎（研究代表者）「生分解性吸水ポリマーがもたらす超節水稲作の新たなスタイル」公益財団法人　クリタ水・環境科学振興財団　（2017 年度-2018 年度）

7) 加藤洋一郎（研究代表者）「タイ氾濫原洪水地帯における農業多角化・集約化に伴う土地開発の環境持続性」公益財団法人　住友財団　（2017 年度-2018 年度）

8) 加藤洋一郎（研究代表者）「気候変動対応型の水稲省力栽培に向けた基礎研究：イネ苗立ち改善に着目して」科研費補助金・研究活動スタート支援　（2017 年度）

9) 河鰭実之，安永円理子（研究分担者）他「ファインバブルが有する生育促進効果等のメカニズムの解明」内閣府・ＳＩＰ（戦略的イノベーション創造プログラム）　次世代農林水産業創造技術（アグリイノベーション創出），研究代表者：矢部彰, (2014 年度-2018 年度）

10) 小山明日香 (研究代表者)他「長野県霧ヶ峰高原での防鹿柵設置による絶滅危惧動植物の保全・再生効果」第 28 期プロ・ナトゥーラ・ファンド助成 (特定テーマ助成), (2017 年度-2019 年度).

11) 小山明日香 (研究代表者) 平成 29 年度女性教員スタートアップ研究費支援, 東京大学. (2017

年度).

12) 楠本　大（研究代表者）他「樹木防御反応の誘導・調節に対する細胞間シグナル物質の機能解明」文部科学省科学研究費補助金（基盤研究(C)）（H27-H29）

13) 楠本　大・竹本周平（研究分担者）他「養菌性キクイムシが媒介する樹木萎凋病の発生リスクに影響する環境要因と系統的制約性」文部科学省科学研究費補助金（基盤研究(A)（海外研究）（H28-H31）研究代表者：鎌田直人

14) 楠本　大（研究分担者）他「上層木の管理は植生の被食耐性を高めるか？資源分配理論からの検証」文部科学省科学研究費補助金（基盤研究(C)）（H27-H29）研究代表者：鈴木牧

15) 本多親子（研究分担者）「赤果肉リンゴにおける着色変動要因の解明」農林水産省委託プロジェクト「実需者等のニーズに応じた加工適性を持つ果樹品種等の開発」研究代表者：岩波徹　(2014 年度-2018 年度）.

16) 鎌田直人（研究代表者），楠本大，平尾聡秀，竹本周平（研究分担者）他「養菌性キクイムシが媒介する樹木萎凋病の発生リスクに影響する環境要因と系統的制約性」　文部科学省・科学研究費補助金・基盤研究（A）海外（H28-H31）研究代表者：鎌田直人

17) 佐々木和浩（研究代表者）「イネの生育ステージで変遷する共生細菌の特定」前川報恩会学術研究助成 (2017 年度-2018 年度)

18) 佐々木和浩（研究代表者）「イネ早朝開花候補遺伝子のクローニング」産学連携－受託研究 (2017 年度)

19) 佐々木和浩（研究代表者）「気温上昇による作物生産変動と対策技術の開発（水稲の高温登熟性の向上のための対策技術の開発）」農林水産省受託プロジェクト研究, (2015 年度-2019 年度）

20) 佐々木和浩（研究代表者）「低投入栽培下でのイネ共生細菌群集の動態とその制御メカニズムの解明」文部科学省科学研究費補助金（基盤 C）, (2015 年度-2017 年度）

21) 佐々木和浩（研究分担者）他「ベトナムで発生するイネ白化病の発生状況調査と病原体の解析」文部科学省科学研究費補助金（基盤 B），研究代表者：岡崎伸, (2017 年度-2020 年度）

22) 佐々木和浩（研究分担者）他「リン資源保全型イネの創出」文部科学省科学研究費補助金（基盤 B），研究代表者：吉田薫, (2016 年度-2019 年度）

23) 山田晋（研究代表者）「身近な在来野草による日本らしい自然再生」エスペックミック(株) 寄附金（2016 年度-2018 年度）

24) 山田晋（研究代表者）「堤防緑化施工地における帰化植物セイバンモロコシの発芽・定着メカニズム解明」河川整備基金,（2017 年度-2018 年度）

25) 山田晋（研究代表者）他「多様な在来種が生育する草地植生は河川堤防法面に創出可能か？文部科学省科学研究費補助金,（基盤研究(B)）（2017 年度-2019 年度）

26) 山田晋（研究分担者）「北東アジアの砂漠化地域における生態系サービス再生を促進する植

生修復技術の開発」（基盤研究(B)），研究代表者：大黒俊哉（2015 年度-2017 年度）

27）山田晋（研究分担者）他「有機無農薬水稲栽培年数の経過に伴って土壌・水稲・雑草・動物はどう変化するか？」文部科学省科学研究費補助金　（基盤研究(B)），研究代表者：小林和彦（2014 年度-2017 年度）

28）安村直樹（研究代表者）「林業用苗木生産工程の現状とその省力化に向けた経営上の課題に関する研究」公益財団法人前川報恩会平成 28 年度学術研究助成

29）安永円理子（研究代表者），深野祐也（研究分担者）.「農業とアートを複合した活動が社会的支援を必要とする人たちに与える効果と影響」公益財団法人東京都歴史文化財団アーツカウンシル東京，共同研究，平成 29 年度.

30）安永円理子（研究代表者）果実物性の流通環境依存性モデルの構築と流通シミュレーション解析への適用．日本学術振興会科学研究費補助金，基盤研究(B)(一般)，平成 28～30 年度.

31）安永円理子（研究代表者）生産環境・流通環境の影響を考慮した果実品質向上のための包括的品質評価モデルの構築，日本学術振興会科学研究費補助金，基盤研究(B)(海外研究)，平成 28～30 年度.

32）安永円理子（研究分担者）農林水産省・平成 28 年度プロジェクト研究「革新的技術開発・緊急展開事業（うち地域戦略プロジェクト），果物の東アジア，東南アジア輸出を促進するための輸出国ニーズに適合した生産技術開発及び輸出ネットワークの共有による鮮度保持・低コスト流通・輸出技術の実証研究．研究代表者：中野龍平，平成 28～30 年度.

33）安永円理子（連携研究者）プラズマを用いた高効率可視光応答性光触媒材料の作製，日本学術振興会科学研究費補助金，挑戦的萌芽研究，研究代表者：梶田信，平成 28～30 年度.

(9) セミナー･シンポジウムなどの企画･開催

1）深野祐也 (2017) あなたと私の進化生物学　岐阜県立多治見高等学校出前講座 (2017 年 9 月 6 日)

2）深野祐也 (2017) あなたと私の進化生物学　岐阜県立多治見北高等学校　スーパーグローバルハイスクール (2017 年 9 月 6 日)

3）郭威（オーガナイザ）.（2017）．農業情報学会人工知能部会国際ワークショップ 「AI x Agriculture」.　東京大学，2017 年 12 月 06 日.

4）渡辺翔，郭威（オーガナイザ）.　（2017）．イメージセンシングで植物を測ろう　-導入から解析まで-.　育種学会第 132 回大会におけるシンポジウム・ワークショップ．2017 年 10 月 7 日，岩手大学，日本

5）米川智司，市川健一郎，曽我竜一，矢津田啓介，工藤新司，和泉賢悟. (2017). 新棟（調製施設群・格納庫棟）と農業機械【現地見学会】. 機構公開セミナー, 東京大学大学院農学生命科学研究科附属生態調和農学機構, 12 月 2 日.

6）蔵治光一郎･安村直樹ら　「気持ちよく納められる森林環境税とは？」(東京大学弥生講堂.

2018 年 3 月 1 日）

(10)　ウェブサイト

1)　（国研）農業・食品産業技術総合研究機構 農業技術革新工学研究センター，東京大学（米川智司），農林水産省生産局，農林水産省農林水産研修所つくば館. (2017-18). 農作業安全情報センター（ウェブサイト）.

http://www.naro.affrc.go.jp/org/brain/anzenweb/

2)　米川智司. (2017-18). 東京大学大学院農学生命科学研究科附属生態調和農学機構「農場博物館」（コレクション鑑定・解説）.

http://www.isas.a.u-tokyo.ac.jp/museum/collections/

3)　（一社）全国農業改良普及支援協会（平成 29 年度農作業安全総合対策推進事業検討委員会委員：米川智司）. (2018). 農作業安全リスクカルテウェブサイト.（制作中）

4　技術職員による研究業績・講演等

(1) 原著論文等

1)　・高野充広，大村和也，栗田直明，西山教雄，丹羽悠二，木村恒太．2018．秩父演習林におけるライトセンサスによるシカ発見数の変化，技術職員等試験研究・研修会議報告，平成 29 年度，東京大学演習林（印刷中）

(2) 口頭発表

1)　石川祐聖・工藤新司：花ハス新品種‘月のほほえみ’の育成とその特性、第 2 回東京大学技術発表会 2/15-16

2)　曽我竜一・手島英敏：イネの種子温湯消毒方法と発芽率・出芽率の関係、第 2 回東京大学技術発表会 2/15-16

3)　相川美絵子・栗田直明：田無演習林の全木調査の方法とこれまでの結果報告、第 2 回東京大学技術発表会 2/15-16

4)　白井深雪・曽我竜一・池田正則・澤田晴雄・高橋功一・藤田真志・佐々木潔州・堀吉満・黒岩真弓：東京大学大学院農学生命科学研究科分析技術グループ研修の紹介、第 2 回東京大学技術発表会 2/15-16

5)　高野充広・大村和也・栗田直明・西山教雄・丹羽悠二・木村恒太：秩父演習林にて行われている夜間動物調査について、第 2 回東京大学技術発表会 2/15-16

6)　小林希美・白澤健太・堀井学・篠原啓子・八城和敏・樋口洋平・石川祐聖・ハクエムダドウル・井上栄一・久保山勉：ddRAD-seq 解析より得られた SNP に基づくレンコン品種識別法の開発、日本育種学会　予定

7)　E. Haque, Y. Higuchi, Y. Ishikawa, M. Horii, K. Yashiro, E. Inoue and T. Kuboyama；Variations in

polyphenol contents in rhizome of fifty four varieties of ornamental Lotus, 日本育種学会　予定

（3）招待講演

1）　石川祐聖．2017．江戸の園芸植物－蓮の生活史－，東京都植物園協会、神代植物園，7 月 16 日．

（4）指導依頼＞

1）　芝野伸策．2018．冬の散歩道特別ガイド，富士癒しの森研究所，2 月 3 日．

（5）撮影協力＞

1）　石川祐聖.テレビ東京　池の水ぜんぶ抜く」の撮影に技術協力と出演，1 月 2 日放映

5　機構を利用した農学生命科学研究科・他研究科等の研究業績

（1）原著論文

1）Gao, N., Shen, W., Camargo, E., Shiratori, Y., Nishizawa, T., Isobe, K., He, X., Keishi Senoo & Senoo, K. (2017). Nitrous oxide (N2O)-reducing denitrifier-inoculated organic fertilizer mitigates N2O emissions from agricultural soils. *Biology and Fertility of Soils*, *53*(8), 885-898.

2）Hashida, Y., Kadoya, S., Okamura, M., Sugimura, Y., Hirano, T., Hirose, T., ... & Aoki, N. (2018). Characterization of sugar metabolism in the stem of Tachisuzuka, a whole-crop silage rice cultivar with high sugar content in the stem. *Plant Production Science*, 1-11. DOI: 10.1080/1343943X.2018.1461016.

3）Honda, E., Yew, C. L., Yoshikawa, T., Sato, Y., Hibara, K. I., & Itoh, J. I. (2017). *LEAF LATERAL SYMMETRY1*, a Member of the *WUSCHEL-RELATED HOMEOBOX3* gene family, regulates Lateral organ development differentially from other paralogs, *NARROW LEAF2* and *NARROW LEAF3* in Rice. Plant and Cell Physiology, 59, 376-391.

4）Ma, Z. H., Cheng, H. T., Nitta, Y., Aoki, N., Chen, Y., Chen, H. X., Ohsugi, R., & Lyu, W. Y. (2017). Differences in Viscosity of Superior and Inferior Spikelets of Japonica Rice with Various Percentages of Apparent Amylose Content. *Journal of Agricultural and Food Chemistry*, *65*, 4237-4246.

5）Morey, S. R., Hirose, T., Hashida, Y., Miyao, A., Hirochika, H., Ohsugi, R., Yamagishi, J., & Aoki, N. (2018). Genetic evidence for the role of a rice vacuolar invertase as a molecular sink strength determinant. *Rice*, *11*, 6.

6）Takai H, Asaoka K, Ishizuna F, Kiuchi T, Katsuma S, and Shimada T. (2018) Morphological and electrophysiological differences in tarsal chemosensilla between the wild silkmoth *Bombyx mandarina* and the domesticated species *Bombyx mori*. *Arthropod Structure & Development,* 47,

238-247.

7) Watanabe, K., Guo, W., Arai, K., Takanashi, H., Kajiya-Kanegae, H., Kobayashi, M., Yano, K., Tokunaga, T., Fujiwara, T., Tsutsumi, N, & Iwata, H. (2017). High-throughput phenotyping of sorghum plant height using an unmanned aerial vehicle and its application to genomic prediction modeling. *Frontiers in Plant Science*, *8*, 421.

8) Zhang, H., Kiuchi, T., Hirayama, C., Katsuma, S., & Shimada, T. (2018). Bombyx ortholog of the Drosophila eye color gene brown controls riboflavin transport in Malpighian tubules. *Insect Biochemistry and Molecular Biology*, *92*, 65-72.

9) Zhang, H., Kiuchi, T., Wang, L., Kawamoto, M., Suzuki, Y., Sugano, S., ... & Shimada, T. (2017). Bm-muted, orthologous to mouse muted and encoding a subunit of the BLOC-1 complex, is responsible for the *otm* translucent mutation of the silkworm *Bombyx mori*. *Gene*, *629*, 92-100.

(2) 学会発表

1) 福田 大朗・塩﨑 麻由・佐々木 和浩・青木 直大・吉田 薫. (2017) .イネ幼植物体におけるリン欠耐性の品種間差異. 第 132 回日本育種学会大会、岩手大学、10 月.

2) 服部 隆征, 山崎 和久, 高田 まゆら, 宮沢 佳恵, 青木 茂, 岡本 研, 加藤 洋一郎, 曽我 昌史, 山岸 順子, 吉田 薫. (2017) .有機質肥料と化学肥料の 25 年間連用施肥が畑の節足動物群集に及ぼす影響. 第 65 回日本生態学会、北海道大学、2018 年 3 月.

3) 鴨志田葵, Eliza Vie Simon, Patrick Lumanglas, 山岸順子, 大杉立, 青木直大, 高井俊之. (2017) . イネ(IR64/コシヒカリ)染色体断片置換系統の解析：穂数・穂重・茎部炭水化物濃度の系統間比較. 日本作物学会第 244 回講演会, 岐阜大学, 発表番号 P-42, 講演要旨集 pp.109., 2017 年 9 月.

4) 菊地玄太・木内隆史・川本宗孝・李允求・竹村洋子・大沼昭夫・新保博・勝間進・嶋田透. (2018) . カイコ広食性系統沢 J の主働遺伝子 pph の同定. 日本蚕糸学会第 88 回大会（平成 30 年度蚕糸・昆虫機能利用学術講演会）. 名古屋大学. 口頭発表. 3 月 19 日～20 日.

5) 松本章宏, 大杉立, 山岸順子, 青木直大. (2017) .イネとダイズの葉における糖・デンプン代謝に関する比較研究. 日本作物学会第 244 回講演会, 岐阜大学発表番号 P-49, 講演要旨集 pp.116, 2017 年 9 月.

6) Morey, S. R., Hirose, T., Ohsugi, R., Yamagishi, J., Aoki, N. (2017) . Role of a vacuolar invertase, OsINV3, in grain size determination of rice (Oryza sativa L.). 日本作物学会第 244 回講演会, 岐阜大学, 発表番号 P-53, 講演要旨集 pp.120, 2017 年 9 月.

7) 薩埵克也・木内隆史・勝間進・嶋田透. (2018) .生殖休眠中のクワキジラミにおける幼若ホルモンの投与によるビテロジェニン遺伝子の発現誘導. 日本蚕糸学会第 88 回大会（平成 30

年度蚕糸・昆虫機能利用学術講演会），名古屋大学．口頭発表, 3 月 19 日～20 日．

8) 塩﨑 麻由・福田 大朗・佐々木 和浩・青木 直大・吉田 薫. (2017) .イネにおけるリンの転流と貯蔵に関する品種間差異. 第 132 回日本育種学会大会、10 月、岩手大学.

9) 園田康介，大杉立，山岸順子，青木直大. (2017)．世界のダイズ・ミニコアコレクションを用いた栄養成長に関する品種・系統間比較解析．日本作物学会第 244 回講演会，岐阜大学，2017 年 9 月．発表番号 P-25，講演要旨集 pp.92.

10) 富原健太・木内隆史・小林淳・川本宗孝・豊田敦・勝間進・嶋田透. (2018) .第 88 回大会（平成 30 年度蚕糸・昆虫機能利用学術講演会）．名古屋大学．口頭発表．　3 月 19 日～20 日．

11) 吉野航太、吉田好邦、土肥哲哉、塩原太一郎、谷晃. (2017) .営農型太陽光発電を踏まえた遮光下での水稲栽培の実証. 生態工学会年次大会発表論文集、37-38、東京、2017 年 6 月

（3）招待講演

1) Senoo, K. (2017). Microbial drivers of nitrogen transformation in rice paddy soil: identification, isolation, and application to N_2O mitigataion. Seminar at Jiangsu University, Jiangsu University, Zhenjiang, China, 27 March.

2) Senoo, K. (2018). Microbial Drivers of Nitrogen transformation in rice paddy soil: identification, isolation and application to N_2O mitigation. Seminar at Nanjing University of Information Science and Technology. Jan. 15.

3) Senoo, K. (2018). Microbial Drivers of Nitrogen Transformation in Rice Paddy Soil: Identification, Isolation and Application to N_2O Mitigation. Seminar at Nanjing Agricultural University. Jan. 15.

4) 岩田洋佳. (2017).ドローンリモセンを用いた作物表現型計測とそのゲノム育種への利用. 植物科学・作物育種におけるフェノーム解析

5) 岩田洋佳. (2017). 植物ビッグデータと育種. 植物科学シンポジウム 2017.

6) 妹尾啓史. (2018). 農耕地からの N2O ガス発生を削減し作物生産性を向上する微生物資材の開発. 日本エコサイクル土壌協会講演会, 2 月 16 日

（4）ワークショップ講演

1) 渡辺翔, 郭威, 岩田洋佳. (2017). ドローンによるフィールドセンシングで植物の成長を追う。日本育種学会第 132 回講演会.